

ナンバリングコード B3LAA-bcdG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 050101) 高度教養主題科目 医療と法 Medicine and Law	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2020年度 後期金2	対象年次 1～
	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局 : 大教センター DPコード : bcd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 2	
	担当教員名 平野 美紀, 柴田 潤子 他	関連授業科目	履修推奨科目
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 15時間 + レポート作成のための事後学習 45時間)			
授業の概要 近年、高度医療の発達と共に患者の権利意識の高まりを背景として、医療と法の学際領域は広がりを見せ、また、医療過誤訴訟が増加するなど医療者の側にも法的な知識を身につける必要性が高まっている。本講義では、専門を異にする法律の実務家および研究者が、オムニバス形式で、医療者にとって有用と思われるそれぞれの専門分野ごとのテーマについて、できるだけ専門用語を用いず、法的問題とその背景について、概説する。			
授業の目的 法律に関する基本的知識を習得した上で、医療臨床現場で役立つ法的知識やその背景を理解し、医療をめぐる様々な法的問題を考察する能力(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)を身につける。			
到達目標 ・ 法律に関する基本的知識を習得することができる。【DPのb: 知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識と、DPのc: 問題解決・課題探究能力／21世紀社会の諸課題に対する探究能力】 ・ 医療臨床現場で役立つ法的知識や倫理的観点を身につけることができる。【DPのd: 倫理観・社会的責任／市民としての責任感と倫理観】			
成績評価の方法と基準 最終のレポート提出をもとに評価する。詳細は初回授業で説明する。 出席60%、レポート40%の予定。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業計画 (医学部キャンパスにて開講) (1) 医療と法に関する基礎知識・概論: 医療と憲法・民法・刑法・行政法との関係 (2) 患者の自己決定の法的位置づけ: いわゆる I Cを中心に、法的側面を考える (3) 末期医療と患者の同意: 尊厳死や安楽死の問題 (4) 精神科医療における患者の同意: 精神科医療における強制入院制度と患者の同意 (5) 医療事故と民法①: 医療事故と民事法的な責任 (6) 医療事故と民法②: 医療事故と民事裁判 (7) 医療事故と刑事法①: 医療事故と医師の届出義務: 警察と検察 (8) 医療事故と刑事法②: 医療事故と刑事過失 (9) 裁判と鑑定: 責任能力の問題を中心に (10) 医療と行政法①: 医療と個人情報保護法 (11) 医療と行政法②: 競争政策と医療 (12) 医療と法: 法曹実務家の経験をもとに (13) 医療と法: 医療と法の連携 (14) 医療と地域連携・多職種連携 (15) まとめ 講師の都合上、順序を変更する可能性があります。			
教科書・参考書等 特に指定せず、授業内で資料を配布する。			
オフィスアワー 授業前後に歓迎いたします。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ＊本授業は医学部キャンパスでの開講です。 ＊六法など法律書がなくても学習できるように配慮します。 ＊本授業の内容は平成27年度開講の医学部開設科目「医療と法規」と同じ内容であるため、平成27年度に当該科目を受講した学生は本授業を受講できません。			
教員の実務経験との関連 医療関係に精通する弁護士や、元裁判官が、実務経験をもとに、医療と法の連携や、医療訴訟等に関して講義する。			

ナンバリングコード B3LAA-ebaG-10-Ef1 授業科目名 (時間割コード: 050102) 高度教養主題科目 海外体験型異文化コミュニケーションⅡ Study Abroad:Communicating Across Cultures Ⅱ	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2020年度 2Q木5	対象年次 1～
	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局 : 大教センター DPコード: eba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 1	
	担当教員名 ロン リム, 高水 徹	関連授業科目 海外体験型異文化コミュニケーションⅠ 履修推奨科目 海外体験型異文化コミュニケーションⅠ	
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習 10時間 + 実地研修・事後学習 20時間) (海外体験型異文化コミュニケーションⅡでは、夏季休暇中に約2週間の現地(台湾)研修を実施。詳細は下記。) 授業の概要 【重要】海外体験型異文化コミュニケーションⅡでは、本学での準備に加え、台湾へ行って研修を行います。海外体験型異文化コミュニケーションⅠはその準備段階となります。第1クォーターの間に、現地での研修に参加へ向けて、積極的に検討してもらいます。 【重要】海外体験型異文化コミュニケーションⅡは、台湾での研修に参加する意志のある学生のみ登録してください。 【重要】海外体験型異文化コミュニケーションⅡのみを履修して研修に参加することも可能ですが、できるだけ海外体験型異文化コミュニケーションⅠも合わせて受講してください。 本授業は海外異文化体験の入門編です。日本とゆかりの深い台湾は、経済的結びつきも強く、アジアの重要な拠点です。現地の研修では、台湾中部の嘉義市に所在する台湾国立嘉義大学に行き、台湾について現地で学ぶだけでなく、現地での学生同士のディスカッションを通して、国際コミュニケーション力を養います。実際に異文化を見聞し、話し合う経験を積むことは、台湾に限らず他の国々の人たちとコミュニケーションする際にも役立ちます。本授業は、第1回から第5回(2012年～2016年)まで、タイ王国で実施されましたが、2017年の6回目から、研修先を台湾へ移しました。今年(2020年)で、台湾での研修は4回目となります。 授業の目的 本授業の目的は、実際に海外に滞在し、日本国内で学習した内容を現地での体験を通して確かめ、新たな知見へと発展させる「経験」をすることです。異文化を背景とする人々との交流実践を積み、グローバル社会で求められる国際コミュニケーション力を伸ばします。			
到達目標 1. 日本や自分自身のことを台湾の学生たちに日本語・中国語・英語で紹介して、発信することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 世界の中の日本の位置づけを理解し、「学生大使」としての意識をもって取り組むことができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 海外での学習体験によって、視野を広げると共に、成熟した市民として行動することができる。			
成績評価の方法と基準 【注意】海外体験型異文化コミュニケーションⅡについては、研修後の最終報告書の提出とチェックを義務付けているため、成績発表は10月上旬頃となる。提出状況によっては、さらに遅れる場合もある。(以下は、研修時期によって変更する可能性あり) 第1クォーター 参加・貢献度: 30% 発表: 40% コミュニケーション: 30% 第2クォーター 事前の取組: 20% 海外研修での参加: 30% 帰国後のレポート提出: 30% 発表会への参加: 20% 授業・演習・発表・ガイダンス等、関連する全てに関して、出席が必要です。一つでも不参加の場合は、単位を認定できなくなることがあるので注意してください。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 本学での事前学習 第1クォーター (1) ガイダンスとイントロダクション、本授業の説明及び確認 (2) 台湾および嘉義大学等について			

- (3) 台湾に関する基本情報（導入および分担決定）
- (4) 台湾に関する基本情報（宗教、祭り、産業、歴史、経済、社会等について、発表準備）
- (5) 台湾に関する基本情報（上記に関する発表）
- (6) 香川県の紹介（分担決定および発表準備）
- (7) 香川県の紹介（プレゼンテーション練習）
- (8) まとめ等

第2クォーター

- (9) イントロダクション
- (10) 中国語の講習会その1（講師は、本学に留学中の嘉義大学生）
- (11) 中国語の講習会その2（講師は、本学に留学中の嘉義大学生）
- (12) 香川大学紹介プレゼンテーションの準備
- (13) 香川大学紹介プレゼンテーションの予行演習
- (14) 中国語による自己紹介・プレゼンテーションの準備、予行演習
- (15) 予備日
- (16) 出国手続き、危機管理に関する講習

現地での研修（これまでの例に基づく案）

- 顔合わせ、キャンパスツアー
- 中国語研修、課外研修（昆虫博物館）
- 中国語研修、課外研修（ヒノキ公園、嘉義公園）
- 中国語研修、課外研修（孔子廟、市民朝市場）
- 中国語研修、課外研修（パイナップル・ケーキや地元の銘菓の工場）
- プレゼンテーション、送別会

帰国後、学内で

- 成果発表会準備
- 成果発表会

※渡航日は8月14日（金）頃の予定（ただし、まだ調整中です）

現地での授業や課外研修は、中・日・英の3か国語を使用
嘉義大学生がバディーとして接してくれる

教科書・参考書等

教材は授業中配布される。

オフィスアワー ロン： 火曜日 13:30～14:30 「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」
高水： 火曜日 15:00～16:00 「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 海外体験型異文化コミュニケーションⅠの受講中に、実際に台湾での研修に参加するかどうかを決定することが可能です。参加を決定した場合は、海外体験型異文化コミュニケーションⅡ（高度教養科目）の履修登録が必要です。
- 受講生人数はおよそ20名までを想定。
- 海外研修費（為替レートや航空運賃にもよるが、約25万円を想定）は自己負担。
- 台湾への渡航前、本学で開催する危機管理セミナーへ出席すること。
- 台湾への渡航は担当教員が全行程を同行。
- 現地での宿泊：大学の施設
- 嘉義大学研修の前後：台北での研修・見学あり。

ナンバリングコード B3LAA-caeG-10-Pg1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050103)	高度教養教育科目	前期集中	
高度教養主題科目	水準 学士: 応用科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
高度教養教育科目・広範教養教育科目	分野 高度教養教育科目	DPコード: cae	特定プログラムとの対応
サーバント・リーダー養成入門Ⅱ			対応なし
Introduction to Servant Leader	授業形態 実験・実習	単位数 1	
Training II「カルチャーシェアリング」	グループワーク		
Culture Sharing			
担当教員名	関連授業科目		
早川 茂, 松村 幸江	履修推奨科目		
学習時間 実習90分×8回 + 自学自習			
授業の概要			
「カルチャーシェアリング」を履修する 本授業は第1クォーター定時で実施したサーバント・リーダー養成入門Ⅰの素養に基づいて、インドネシア学生と交流し、お互いの言語・文化を理解するとともに、異文化の壁を乗り越え多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを語る実践的コミュニケーション能力を身につける。そのため、サーバント・リーダー養成入門Ⅰの履修者のみを対象として実施する。本授業は香川県内農山漁村で行う滞在型フィールドワーク（1泊2日）から成り、夏期休業中に集中実施する。			
授業の目的			
グローバルな視野を養成するために、日本・インドネシアの言語・文化を理解し、多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを語る能力を身につける。			
到達目標			
「カルチャーシェアリング」 ・相手国の学生と共に暮らすことができる（関心・意欲）・英語またはインドネシア語で、自国の生活・文化を説明することができる（技能・判断）・英語またはインドネシア語で、自らの未来ビジョンを語る（知能・理解） ・共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応			
成績評価の方法と基準			
・合宿活動中の活動内容（20%）、活動終了時のプレゼンテーション及び討論内容（20%）、提出されたレポート内容（60%）に基づき評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
「カルチャーシェアリング」 香川県内の農山漁村で行う滞在型フィールドワーク（1泊2日）において、インドネシアの学生と共に活動する。お互いに自国の農山漁村の文化に関して討論し、プレゼンを行う。8月下旬の夏期休業中に集中実施する。			
第1回 第2クォーター 月曜日5校時（8月3日）にガイダンスを行う			
自学自習について、 ・滞在する農山漁村の概要を学ぶ ・インドネシアの文化の概要について学ぶ、あいさつ程度のインドネシア語を学ぶ			
教科書・参考書等			
関連プリント配布			
オフィスアワー SUIJI推進室（農学部 DS301） 月～水 曜日 10:00～16:00			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本授業は、SUIJIサーバント・リーダー養成プロジェクトで展開する国内及びインドネシアにおける農山漁村サービスラーニング・プログラムへの参加を希望する学生、及び異文化理解に興味ある学生を対象とする。 主題B-2「グローバル社会と異文化理解」サーバント・リーダー養成入門Ⅰ「地球未来創成入門」を必ず履修すること。			
カルチャーシェアリングにおいて宿泊費・交通費が必要になる場合もある。 保険については、学研災及び学研賠に加入すること。			

ナンバリングコード B3LAA-abcG-10-Eg1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050104)	高度教養教育科目	2Q火1	
高度教養主題科目	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局: 大教センター DPコード: abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
発達障害当事者研究の意義Ⅱ The importance of my own developmental disabilities research Ⅱ	授業形態 演習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 西岡 圭子	関連授業科目		
	履修推奨科目 発達障害当事者研究の意義Ⅰ (Ⅰを受講して単位を修得しなければⅡは受講できない)		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習 (30時間)			
授業の概要			
「発達障害当事者研究」では、「発達障害」を、専門家が既存のスケールで「正常」の範囲外として測定し、投薬を中心にして治療する事態、として、とらえない。誰もが日常的に体験する状態と連続する事態として、とらえる。さらに、「当事者」が自分自身の状態を子細に叙述して他者に読解されて意見交換することを繰り返して、開かれた人間関係を構築することで、対処できる事態、として、とらえる。当授業では、近年、世界的に注目されている日本の「発達障害当事者研究」の論者、綾屋紗月と熊谷晋一郎による著述の読解を軸にして、受講者間での「当事者研究」を、アクティブ・ラーニングで推進して、人間とは何かを探究する。教員の西岡が一方的に見解を示すのではない。受講者間でそれぞれの読解レポートを回し読みして検討しあうことを重視する。当然、自分の個人的情報を他者に開示していくことになる。レポートの内容を授業外に漏洩することなく、授業時間内に個人的情報の交換を行うことの必然性と意義を理解し、承諾することが、当授業への参加条件である。			
授業の目的			
健常者と障害者とは異なる、とみなされる客観化の手前、「当事者」としての人間、の立ち位置から、人間きと何か、という哲学的問題を考察する姿勢を形成できるようになる。			
到達目標			
1. 「発達障害当事者研究」の理論を自分なりの表現で説明することができる。 2. 自分自身に対しても他者に対しても、「健常者か障害者か」、という、二者択一的で固定的な見かたをしないようになる。 3. 人間が生きるありさまについて深く考えるようになる。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
本授業は、主題科目Bの「Ⅰ」を受講し「1」の4回の課題レポートを提出して単位を修得した者のみが、受講できる「高度教養主題科目」である。。「Ⅰ」と同様に、ほぼ毎回の出席、毎時間ごとの感想文、授業時間内の発言、テキストを読み進めながら宿題として作成する、4回の課題レポート(1回が1200字程度)の内容から、総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[授業計画]			
第1回	レクチャー [キーワード: 見せることばと聞かせることば]		
第2回	テキスト第5章のレポート回し読み [キーワード: 声の代わりを求めて]		
第3回	レクチャー [キーワード: 手話による絵本の読み聞かせ]		
第4回	テキスト第6章のレポート回し読み [キーワード: 夢から現へ]		
第5回	レクチャー [キーワード: 始原の人間の世界]		
第6回	第7章のレポート回し読み [キーワード: 人とモノ]		
第7回	レクチャー [キーワード: ゆっくりしていねいにつなりたい]		
第8回	補足プリントのレポート回し読みとレクチャー [キーワード: 敗北の官能]		
[自学自習に関するアドバイス]			
自宅で、テキスト及び授業時に配布するプリントを熟読し、隔週で、宿題のレポート(1200字程度、4回)を作成することが基本である。各自のレポートは、受講者間で、回し読みをして、議論の素材にする。毎回の授業の終了時に、出席者の理解度を把握する趣旨でのミニ感想文の提出も求める。			
第1回	レクチャー [キーワード: 見せることばと聞かせることば] (5時間)		
第2回	テキスト第5章のレポート回し読み [キーワード: 声の代わりを求めて] (5時間)		
第3回	レクチャー [キーワード: 手話による絵本の読み聞かせ] (4時間)		
第4回	テキスト第6章のレポート回し読み [キーワード: 夢から現へ] (4時間)		

第5回	レクチャー [キーワード：始原の人間の世界] (4時間)
第6回	第7章のレポート回し読み [キーワード：人とモノ] (4時間)
第7回	レクチャー [キーワード：ゆっくりていねいにつなりたい] (4時間)
第8回	補足プリントのレポート回し読みとまとめ [キーワード：敗北の官能] (4時間)

教科書・参考書等

教科書：綾屋紗月＋熊谷晋一郎『発達障害当事者研究 － ゆっくりていねいにつなりたい』 医学書院
2008年2000円＋税， 授業で使用する他、レポート作成のための必読資料として指定する。

オフィスアワー 火曜日 3時間目 8号館4階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 遅刻厳禁 出席重視
2. 本年度の主題科目Bの「発達障害当事者研究の意義Ⅰ」を受講して単位を修得した者のみが履修できる。(令和元年度以前開講の「発達障害当事者研究の意義 その1」を受講していても、本年度の本授業を履修することはできない。)

ナンバリングコード B3LAA-bcaG-5N-Eg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050105)	高度教養教育科目	前期集中	
高度教養主題科目	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局: 大教センター DPコード: bca	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
ヒューマニティーズプログラム課題研究Ⅰ Humanities Research	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
ヒューマニティーズプログラム課題研究 (Humanities Research)			
担当教員名	関連授業科目 ヒューマニティーズ (人文学) プログラム対象科目		
佐藤 慶太, 石川 徹, 三宅 岳史, 守田 逸人, 唐澤 晃一, 最上 英明, フリアン・ノイマン, 金澤 忠信	履修推奨科目 ヒューマニティーズ (人文学) プログラム対象科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (事前学習30時間相当+事後学習30時間相当)			
授業の概要			
これまで履修したプログラム対象科目の内容を踏まえて、レポートを作成する。具体的には、レポートのテーマ設定、資料・文献収集、レポート執筆、内容についてのプレゼンテーションというステップを踏む。			
授業の目的			
自分の問題関心に基づいて人文学に関わるテーマを設定し、それについて自らの考えを論証できるようになる。			
到達目標			
①自分の問題関心に基づいて、考察のテーマを設定することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
②設定したテーマに関する文献や資料を収集することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
③収集した資料、文献を読解し、ポイントとなる部分を整理することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
④収集した資料、文献に基づいて、設定したテーマについての自分の考えを、論理的に文章化することができる。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
⑤文章化した内容を要約して、発表することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業への参加 (教員とのディスカッション: 到達目標①に対応)、レポートの作成過程 (到達目標②、③、④に対応)、中間報告 (到達目標⑤に対応)、最終プレゼンテーション (到達目標⑤に対応)などを総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業方法】			
基本的に、教員と学生がディスカッションをする形式で進める。第1 回および第14・15回以外の授業は、レポートの進捗状況に応じて、適宜日程を決定する。			
【授業計画】			
第1 回	レポート作成についてのガイダンス		
第2 回	テーマ設定についての検討①		
第3 回	テーマ設定についての検討②		
第4 回	テーマ設定についての検討③		
第5 回	文献、資料収集の実践①		
第6 回	文献、資料収集の実践②		
第7 回	アウトライン作成		
第8 回	中間報告		
第9 回	レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ①		
第10回	レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ②		
第11回	レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ③		
第12回	レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ④		
第13回	プレゼンテーションの資料作成と練習		
第14回	報告会①		
第15回	報告会②		

【自学自習のためのアドバイス】

- ①授業中に次回の授業までの課題を提示します。この課題をこなすことが、授業の前提になりますので、忘れずに取り組んでください。
- ②中間報告、最終報告のためには、プレゼンテーション資料およびレポートの作成が必要です。授業で学んだことを踏まえて、授業時間外に作成する必要があります。詳しくは授業中に指示します。

教科書・参考書等

授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 全般的な事柄については、佐藤まで。木曜日12:00～14:00（佐藤慶太研究室、幸町北5号館5F）。個別的な事柄については、それぞれの担当教員まで。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業を履修する学期に、ヒューマニティーズプログラム対象科目を12単位取得できる学生のみ、履修可能です。

ナンバリングコード B3LAA-bcaG-5N-Eg2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050106)	高度教養教育科目	後期集中	
高度教養主題科目 ヒューマニティーズプログラム課題研究Ⅱ Humanities Research	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局: 大教センター DPコード: bca	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネスト・プログラム
ヒューマニティーズプログラム課題研究 (Humanities Research)	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 佐藤 慶太, 石川 徹, 三宅 岳史, 守田 逸人, 唐澤 晃一, 最上 英明, フリアン・ノイマン, 金澤 忠信	関連授業科目	ヒューマニティーズ (人文学) プログラム対象科目	
	履修推奨科目	ヒューマニティーズ (人文学) プログラム対象科目	
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (事前学習30時間相当+事後学習30時間相当)			
授業の概要 これまで履修したプログラム対象科目の内容を踏まえて、レポートを作成する。具体的には、レポートのテーマ設定、資料・文献収集、レポート執筆、内容についてのプレゼンテーションというステップを踏む。			
授業の目的 自分の問題関心に基づいて人文学に関わるテーマを設定し、それについて自らの考えを論証できるようになる。			
到達目標			
①自分の問題関心に基づいて、考察のテーマを設定することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ②設定したテーマに関する文献や資料を収集することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ③収集した資料、文献を読解し、ポイントとなる部分を整理することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ④収集した資料、文献に基づいて、設定したテーマについての自分の考えを、論理的に文章化することができる。 (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「課題解決のための汎用的スキル」に対応) ⑤文章化した内容を要約して、発表することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への参加 (教員とのディスカッション: 到達目標①に対応)、レポートの作成過程 (到達目標②、③、④に対応)、中間報告 (到達目標⑤に対応)、最終プレゼンテーション (到達目標⑤に対応)などを総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業方法】 基本的に、教員と学生がディスカッションをする形式で進める。第1 回および第14・15回以外の授業は、レポートの進捗状況に応じて、適宜日程を決定する。			
【授業計画】 第1 回 レポート作成についてのガイダンス 第2 回 テーマ設定についての検討① 第3 回 テーマ設定についての検討② 第4 回 テーマ設定についての検討③ 第5 回 文献、資料収集の実践① 第6 回 文献、資料収集の実践② 第7 回 アウトライン作成 第8 回 中間報告 第9 回 レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ① 第10回 レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ② 第11回 レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ③ 第12回 レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ④ 第13回 プレゼンテーションの資料作成と練習 第14回 報告会① 第15回 報告会②			

【自学自習のためのアドバイス】 ①授業中に次回の授業までの課題を提示します。この課題をこなすことが、授業の前提になりますので、忘れずに取り組んでください。 ②中間報告、最終報告のためには、プレゼンテーション資料およびレポートの作成が必要です。授業で学んだことを踏まえて、授業時間外に作成する必要があります。詳しくは授業中に指示します。
教科書・参考書等 授業中に適宜紹介します。
オフィスアワー 全般的な事柄については、佐藤まで。木曜日12:00～14:00（佐藤慶太研究室、幸町北5号館5F）。個別的な事柄については、それぞれの担当教員まで。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本授業を履修する学期に、ヒューマニティーズプログラム対象科目を12単位取得できる学生のみ、履修可能です。

ナンバリングコード B3LAA-caxG-5N-Ep2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050107)	高度教養教育科目	前期集中	
高度教養主題科目	水準 学士: 応用科目	提供部局: 大教センター	対象学生 特プロ履修学生のみ
DRIイノベーター養成プログラム課題研究	分野 高度教養教育科目	DPコード: cax	特定プログラムとの対応
DRI Research			ネスト・プログラム
DRIイノベーター養成プログラム課題研究	授業形態 演習 PBL	単位数 2	
DRI Research			
担当教員名	関連授業科目 DRIイノベーター養成プログラム対象科目		
小坂 有資 他	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要			
これまで履修したプログラム対象科目の内容を踏まえて、課題研究レポートとそのプレゼンテーションを行います。具体的には、課題研究レポートの課題設定、データや資料の収集とそれらをもとにした分析や活動(プロジェクトや作品制作等)、課題研究レポートの執筆とそのプレゼンテーションというステップを踏みます。			
授業の目的			
DRIに関連する課題を設定し、その課題を探求もしくは解決することができる。さらに課題を探求もしくは解決することで、地域社会にイノベーションを創出するためのヒントを見つけることができる。			
到達目標			
1. DRI に関連する課題を設定することができる。 2. DRI に関連する課題を探求もしくは解決するために、研究や活動(プロジェクトや作品制作等)を行うことができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 研究や活動を通じてみつけた地域社会にイノベーションを創出するためのヒントについて説明することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
課題研究レポートやプレゼンテーション資料とその作成過程、中間発表、全体発表を総合的に評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 レポート・プレゼンテーション資料作成についてのガイダンス			
第2回 DRIに関連する課題設定①			
第3回 DRIに関連する課題設定②			
第4回 課題を探求もしくは解決するための方法の検討			
第5回 データや資料等の収集のための調査や実験等①			
第6回 データや資料等の収集のための調査や実験等②			
第7回 収集したデータや資料等をもとにした分析や活動(プロジェクトや作品制作等)①			
第8回 収集したデータや資料等をもとにした分析や活動(プロジェクトや作品制作等)②			
第9回 中間発表会			
第10回 レポート・プレゼンテーション資料の作成①			
第11回 レポート・プレゼンテーション資料の作成②			
第12回 レポート・プレゼンテーション資料のブラッシュアップ①			
第13回 レポート・プレゼンテーション資料のブラッシュアップ②			
第14回 全体発表会①			
第15回 全体発表会②			
【授業方法】			
第1回および第14・15回以外の授業は、調査や実験等、分析や活動(プロジェクトや作品制作等)の進捗状況に応じて、適宜日程を決定します。全体発表会は、D・R・Iすべてのコースの学生が集まって行います。			
【自学自習のためのアドバイス】			
授業やメール指導等で次の課題を提示します。この課題をこなすことが授業の前提になりますので、忘れずに取り組んでください。			
教科書・参考書等			
授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 水曜日12～14時・幸町北キャンパス5号館5階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本授業を履修する学期に、DRIイノベーター養成プログラム対象科目を、本授業を除いて10単位以上取得できる見込みのある学生のみ履修可能です。			
履修者が6名以上ならば開講します。			
フィールドワーク等を行う可能性があるため、「学生教育研究災害傷害保険(学研災)」等の保険に加入しておいてください。			

ナンバリングコード B3LAA-abxG-10-Le1	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050108)	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局: 大教センター DPコード: abx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
高度教養主題科目 知プラe科目 インドネシアの文化と会話 インドネシアの文化と会話／Indonesian language and culture	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 島上 宗子	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】インドネシア語、インドネシア文化、多民族国家			
世界最大の島嶼国家であり、多様な民族からなるインドネシアは、日本とも歴史的・経済的に深いつながりをもっている。インドネシア語の初歩的な会話と基本文法を、インドネシアの習慣や文化を交えながら学ぶことで、インドネシアの言語と文化に対する理解を深める。			
授業の目的			
インドネシア語の初歩的な会話と基本文法を、文化的特徴を交えながら、学ぶ。			
到達目標			
1. 初歩的なインドネシア語の基本文法を理解する。 2. インドネシア語で自己紹介や挨拶ができる。 3. インドネシア語で否定文、疑問文、受動態の文章が作れる。 4. インドネシア語で数字や時間に関わる簡単な表現ができる。 5. インドネシアの言語をめぐる特徴について説明できる。 6. インドネシアと日本の文化的違いを理解し、その主な違いを説明できる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。 各回の小テスト・課題の提出を行うことで、成績評価の対象とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①インドネシア語を発音してみよう ②自己紹介 ③家族の紹介 ④こんにちは ⑤これ、何ですか？ ⑥me動詞 ⑦数字 (今何時？これいくら？) ⑧受動態			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
参考書1 書名 インドネシア語が面白いほど身につく本 I S B N 4046001283 著者名 ドミニクス・バタオネ、近藤由美 出版社 KADOKAWA/中経出版 出版年 2013年 金額 1760円			
参考書2 書名 インドネシア検定—ASEAN検定シリーズインドネシア検定公式テキスト I S B N 4839602417 著者名 加納 啓良(監修) 出版社 めこん 出版年 2011年 金額 2,200円			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、課題提出) を心がけてくださ			

い。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

教員の実務経験との関連

インドネシアでの長期滞在・調査に携わった経験のある教員が、インドネシアの文化と会話に対する理解を高めるための授業を行う。

ナンバリングコード B3LAA-bxxG-10-Le2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050109)	高度教養教育科目	前期集中	
高度教養主題科目	水準 学士: 応用科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
	分野 高度教養教育科目	DPコード: bxx	特定プログラムとの対応
知プラe科目 海洋地球科学概論			対応なし
海洋地球科学概論 (知られざる「海洋」の理解と地球における役割) / Marine Geoscience (Oceanography and Earth Science)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
村山 雅史	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 海洋の動態, 海洋地球科学, 生物地球化学サイクル, 地球環境			
太陽系惑星で唯一存在する海洋の成り立ちと役割について学び, 地球規模での様々な物質循環や気候変動について理解する。			
授業の目的			
受講生は, 地球表層環境における海洋の果たす役割をよりよく理解するために, 海水の循環とそれにともなう物質循環, 海底の動きや地球内部変動, 堆積物に刻まれた地球環境の歴史と生命の進化に関する事を学ぶ。とくに, 海洋の成り立ちや地球誕生から表層圏 (大気圏, 水圏, 地圏, 生物圏) の進化の過程で, 海洋の果たしてきた役割を理解する。			
到達目標			
海洋学の理解, 海洋地球科学の理解, 地球表層環境の理解, 学習手法の理解 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
各講義の終了後に講義内容に関する10点満点の小テストをLMS上で実施する。定められた期限内に15回の講義コンテンツのうち最低10回以上の講義を聴き, 小テストに解答することが必須条件である。 15回の講義終了時に, 15回の小テストの合計点 (150点満点) を三分の二して100点満点に換算して成績をつける。 なお期末試験は実施しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業スケジュール】			
第1回 地球における海洋の役割			
第2回 海はどのように形成されたか?			
第3回 海水の性質			
第4回 海の循環			
第5回 海の循環にともなう物質循環			
第6回 海底地形			
第7回 海底堆積物の種類I			
第8回 海底堆積物の種類II			
第9回 海洋観測 (手法, 歴史, 船の生活) について			
第10回 海洋底に記録される環境の記憶			
第11回 新生代気候変動「地球寒冷化」			
第12回 地球温暖化と海洋酸性化			
第13回 プレートテクトニクス			
第14回 海底下生命圏の研究			
第15回 海底資源 (メタンハイト?レート)			
【授業時間外学習について】			
参考図書を熟読すること, 受講ノートの復習			
【e-Learning科目の履修登録に際して】			
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また, 科目によって受講制限をかける場合がある。なお, 教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので, 大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで, 期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
参考書1 書名 海洋地球化学			

I S B N 978-4-06-155237-1 著者名 蒲生俊敬編
出版社 講談社サイエンティフィック 出版年 2014

参考書2 書名 地球表層環境の進化-先カンブリア時代から近未来まで
I S B N 978-4-13-062720-7 著者名 川幡穂高
出版社 東大出版会 出版年 2008

参考書3 書名 海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む
I S B N 978-4-13-060752-0 著者名 川幡穂高
出版社 東大出版会 出版年 2011

参考書4 書名 地質学I：地球のダイナミックス
I S B N 4-00-006240-9 著者名 平 朝彦
出版社 岩波書店 出版年 2001

参考書5 書名 地質学II：地層の解説
I S B N 4-00-006241-7 著者名 平 朝彦
出版社 岩波書店 出版年 2004

参考書6 書名 地質学III：地球史の探求
I S B N 4-00-006242-8 著者名 平 朝彦
出版社 岩波書店 出版年 2007

参考書7 書名 気候変動を理学する
I S B N 978-4-622-07749-7 著者名 多田隆治
出版社 みすず書房 出版年 2013

オフィスアワー moodle (e-learningシステム) 上の専用掲示板「お知らせ」を利用し連絡すること

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-learning形式の講義であるため、履修に必要な手続きをしておく必要がある。講義コンテンツはMoodle (LMS) システムを通して配信するので、Moodleの使い方等について十分理解しておくこと。また、ノートを準備し、受講中に要点や専門用語を書き留めて、自分なりの講義ノートを作成すること。理解できなかった箇所は、推薦図書を参考に必ず復習をおこなうこと。

ナンバリングコード B2LAC-bceG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 050201) 広範教養主題科目 知プラe科目 大学の知の活用 大学の知の活用／Practical use of university 's intellectual property	科目区分 広範教養教育科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 広範教養教育科目	提供部局: 大教センター DPコード: bce	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 井内 健介	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】四国地域の大学、産学官連携、イノベーション、研究、知的財産 本講義では、大学の知の活用に必要な基礎知識を紹介した上で、四国地域における具体的な大学の知の活用に関する取り組みを紹介する。			
授業の目的 大学の知の活用に必要な基礎知識及び四国地域の大学の知の活用に関する取り組みを知ることにより、その必要性や大学と地域との関わりを理解することを目的とする。			
到達目標			
1. 大学の知の活用に必要な基礎知識を理解する。 2. 四国地域の大学の知の活用に関する取り組みを理解する。 3. 大学の知の活用の必要性を実感する。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準 本授業はe-ラーニング形態です。各回で出題する小課題(100%)で成績評価をおこないます。ただし、各回の小課題提出回数が全体の2/3に満たない場合は成績を判定しません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1. 井内健介准教授・徳島大学 「大学の知の活用の全体像」 2. 土居修身教授・愛媛大学 「大学の知の活用に必要な基礎知識①」 3. 土居修身教授・愛媛大学 「大学の知の活用に必要な基礎知識②」 4. 恒川典之特任教授・高知大学 「大学の知の活用に必要な基礎知識③」 5. 土居修身教授・愛媛大学 (中川氏・株式会社ブルータス・コンサルティング) 「大学の知の活用に必要な基礎知識④」 6. 前田眞教授・愛媛大学 「大学の地域貢献」 7. 兼平重和客員教授・徳島大学 「四国地域における大学の知の活用に関する取組①」 8. 兼平重和客員教授・徳島大学 「四国地域における大学の知の活用に関する取組②」 9. 永富太一准教授・香川大学 「文系領域の産学連携プロジェクト」 10. 永富太一准教授・香川大学 「コンソーシアムからの産学連携プロジェクト」 11. 石塚悟史教授・高知大学 「高知大学における産学連携事例1」 12. 石塚悟史教授・高知大学 「高知大学における産学連携事例2」 13. 松下一郎客員教授・徳島大学 「青色LEDにおける大学の基礎研究の活用」 14. 久保田邦昭客員教授・徳島大学 「バイオ・医薬分野の知的財産制度と産学連携①」 15. 久保田邦昭客員教授・徳島大学 「バイオ・医薬分野の知的財産制度と産学連携②」			
【授業時間外学習について】 講義後に関連する事項について復習する。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー 物理的に徳島大学への訪問は困難だと推測されますので、問い合わせはメールにて 徳島大学 研究支援・産学官連携センター 井内准教授 inai.kensuke(a)tokushima-u.ac.jp ※(a) → @			

香川大学 社会連携・知的財産センター 永富准教授
nagatomi(a)eng.kagawa-u.ac.jp ※(a) → @

高知大学 次世代地域創造センター 地域イノベーション部門 恒川特任教授
kt05(a)kochi-u.ac.jp ※(a) → @

愛媛大学 社会連携推進機構 秋丸准教授
akimaru.kunihiro.mu(a)ehime-u.ac.jp ※(a) → @

鳴門教育大学 知的財産室 宮本准教授
Kmiyamot(a)naruto-u.ac.jp ※(a) → @

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業はe-ラーニングの形態でおこないます。基本的に、授業の進行は、皆さんの自主性に任せられます。皆さんは、計画的に学習を進めるよう注意してください（e-ラーニング形態は自由度が高い反面、多くの学生が、途中でリタイアしてしまうことが分かっています）。高度な自律性が求められることを理解した上で、本科目を履修するようにしてください。

教員の実務経験との関連

民間企業、技術移転機関、政府系機関等において、知的財産の活用に関する実務経験を有する講師が、大学の知を活用するために実務上、必要な基礎知識を紹介した上で、四国地域における具体的な大学の知の活用に関する取り組みを、実例を交えて講義する。

ナンバリングコード B2LAC-bcxG-10-Le2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050202)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目 知プラe科目 行動統計学入門	水準 学士: 基礎科目 分野 広範教養教育科目	提供部局: 大教センター DPコード: bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
行動統計学入門 (エクセルを利用した統計的分析手法の基礎) / Introduction to Behavioral Statistics (Fundamentals of statistical analysis using Excel)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 山本 真由美	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 データの整理、記述統計、推測統計、統計的仮説検定、確率的判断			
社会科学や行動科学を学ぶ際、目的をもって集められたデータを整理し、その中に存在する情報を記述統計、推測統計の手法を用いて分析、理解することが必要となる。この授業では、文系の学生にも重要な統計学の基本的な手法を具体的な演習課題をエクセルで解きながら学習する。			
授業の目的			
調査や実験を通じて収集したデータを整理し、その分析手法および結果解釈法の基本を学ぶ。また、手軽に利用できる道具としてエクセルを利用しデータ分析に必要な手順を体得する。			
到達目標			
エクセルの基本的な機能を利用して、与えられたデータの整理、および分析ができる データの整理、分析を行う際、そのデータの種類に合わせた方法を選択し、正確に行うことができる 正確に記述統計量と検定統計量を計算し、その解釈を行うことができる データの種類と統計分析の目的に合わせて仮説検定を行い、その結果を確率的に判断することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
各回 (01～14) の課題の提出状況 (42%) と期末試験レポート (58%) で行ないます。各回の課題は、それぞれ次の評価 (75%以上の正解=3点、50～75%の正解=2点、25～50%の正解=1点、25%未満=0点) を受けることになる。提出回数が少ない場合は、課題の合計得点が少なくなるので注意してください。10回分以上の課題が提出された後で、期末試験レポートの提出資格が生じます。期末試験レポートは、第15回の授業を受講後に取り組み、不正行為がないことの宣誓書 (別様式あり) への記名等とともに提出があった場合にのみ採点されます。(期末試験レポートの提出締切日: 1月15日)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
01. オリエンテーション、統計学の用途とエクセルの利用 02. データの記述: 整理法、表示法、図示法 課題 (01・02) 提出締切日: 11月第2週 03. データの理解、代表値、散布度 04. データの分布と変換 課題 (03・04) 提出締切日: 11月第3週 05. データの集計: 単純集計、クロス集計 06. データの関連、相関 課題 (05・06) 提出締切日: 11月第4週 07. 記述統計から推測統計へ 確率分布の利用 (1) 08. 推定と検定 確率分布の利用 (2) 課題 (07・08) 提出締切日: 12月第1週 09. 統計的検定の手順 10. t 検定の利用 課題 (09・10) 提出締切日: 12月第2週 11. U検定、T検定の利用 12. カイ2乗検定の利用 課題 (11・12) 提出締切日: 12月第3週 13. 相関係数の利用 14. ファイ係数の利用 課題 (13・14) 提出締切日: 12月第4週 15. 統計手法適用の問題点と留意点			
【授業時間外学習について】			
授業の内容を補完する練習問題 (提出必要なし)、および課題 (提出必要、最終成績の一部となる) を解き、学んだことを定着させてください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】			
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。			

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

参考書1 書名 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本
I S B N 978-4-7628-2125-7 著者名 吉田 寿夫
出版社 北大路書房 出版年 2006年
金額 2500円＋税

オフィスアワー 科目のサイトにある質問コーナーを主に利用してください。メールでも対応します。その際、件名には「e統計学入門」と記してください。

koudou (アットマーク) cue.tokushima-u.ac.jp
(アットマーク)を@に置き換えてご利用ください

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業は、エクセルについて学ぶための授業ではなく、エクセルを使って学ぶ授業です。そのため、エクセル未経験者の履修はご遠慮ください。履修希望学生は、グラフ作成や数値計算などのエクセルの基本的な操作をすでに習得していることが求められます。授業内容に関係した統計や数学等に関わるエクセル関数については、授業の進展に合わせて紹介していきます。

参考資料として記述統計用の基本公式集、および推測統計用の基本公式集を配付します。十分に活用してください。

ナンバリングコード B2LAC-bdxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 050203) 広範教養主題科目 知プラe科目 自動車概論 自動車概論／Introduction to Automobile Engineering and Society	科目区分 広範教養教育科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士：基礎科目 分野 広範教養教育科目	提供部局 ：大教センター DPコード：bdx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
	担当教員名 宮下 晃一	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要 【キーワード】 (1)自動車, (2)技術, (3)社会 自動車社会の一員として責任をもって自動車と関わっていく上で知っておくべき自動車の社会的な役割と弊害、構造と技術、日常点検と整備の方法、万一の事故対応や保険制度について、幅広く解説する。			
授業の目的 公共交通機関があまり発達していない上に過疎化や高齢化が進む四国地方では、これからも自動車を上手に活用していく必要がある。環境やエネルギーの世界的な動向と地域社会における必要性を理解しながら、適切に自動車を利用できる、将来の自動車社会の担い手を育成する。			
到達目標			
自動車の社会的な役割と弊害、構造と技術、最近の技術動向、日常点検と整備の方法、万一の事故対応や保険制度等を正しく理解する。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業毎に課される課題の提出状況と内容により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 自動車社会の功罪 第2回 自動車の構造 (エンジン) 第3回 自動車の構造 (クラッチ, 変速機) 第4回 自動車の構造 (ステアリング, ブレーキ) 第5回 自動車の構造 (差動歯車, サスペンション, タイヤ) 第6回 最近の技術動向と自動車社会の行方 第7回 日常の点検・整備 第8回 ドライバーの責任と義務 【授業時間外学習について】 授業で学んだ内容について、さらに詳しく資料を調べ、自分や家族の自動車を使って実践しながら、学習していただきたい。 【受講期間】 開講時に通知するため、留意されたい。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 参考書1 書名 ダイナミック図解 自動車のしくみパーフェクト事典 I S B N 4816355022 著者名 古川 修 出版社 ナツメ社 出版年 2013 参考書2 書名 損をしないためのポイントがわかる 交通事故に遭ったら読む本 I S B N 4534052138 著者名 ベリーベスト法律事務所 出版社 日本実業出版社 出版年 2014 参考書3 書名 モビリティ革命2030 自動車産業の破壊と創造 I S B N 4822237273 著者名 デロイト トーマツ 出版社 日経BP社 出版年 2016			
オフィスアワー オフィスアワー：特に設けない。電子メール (miyasita@naruto-u.ac.jp) で問い合わせること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
授業毎に課される課題は受講期間 (開講時に通知する) 内に提出すること。			

ナンバリングコード B2LAC-bdcG-10-Le2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050204)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 大学生のための『安全・安心』の基礎講座	分野 広範教養教育科目	DPコード: bdc	特定プログラムとの対応 対応なし
大学生のための『安全・安心』の基礎講座 ／Basic lecture of "Security & Relief" for university students	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
田中 寿郎	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】感染症、ヒューマンファクター、リスクホメオスタシス、リスクマネジメント、法令順守			
安心とはどういう状態であろうか。少し深く考えると安心できる要素は人によって異なることが判る。この講義では、全ての人が安心して暮らせるために、その根本となる安全と健康について、個人としてできることや組織として管理する時の注意などについて、全15回を通して基礎的な知識を習得することを目標とする。			
授業の目的			
充実した大学生活を送るために重要な、安心・安全な生活とは何か、安心な暮らし・身近な危険・安全とリスクについて考え、実生活の中で危機に対応していくための基本知識を習得する。			
到達目標			
安全な暮らしに関する説明ができる 身近な危険や有害物等について説明ができる 安全とリスクについて、具体的な防止策について挙げることができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「市民としての責任感と倫理観」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
課題は全て実施する事。1回でも実施していない場合には、不可あるいは0点の評価とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回: 安心に暮らすためにできること、山本 仁 (大阪大学)			
第2回: 身近にある危険・有害物 (I)、辻 佳子 (東京大学)			
第3回: 身近にある危険 (感染症) (II)、三浦 竜一 (東京大学)			
第4回: 人体への影響、大久保靖司 (東京大学)			
第5回: 安全とリスクについて、土橋 律 (東京大学)			
第6回: ヒューマンエラーを防ごう、中尾 政之 (東京大学)			
第7回: 個人にできること (I) 倫理・不正防止、片倉 啓雄 (関西大学)			
第8回: 個人にできること (II) 危険感受性、大島 義人 (東京大学)			
第9回: 組織としての対応 (I) CSR、石田 英之 (大阪大学)			
第10回: 組織としての対応 (II) 安全管理、錦見 端 (名古屋大学)			
第11回: 組織としての対応 (III) リスクアセスメント、山本 仁 (大阪大学)			
第12回: 組織としての対応 (IV) 健康管理、黒澤 一 (東北大学)			
第13回: コンプライアンス、村田 静昭 (名古屋大学)			
第14回: 危機に際してどう行動するか、梅田 幸治 (大阪大学)			
第15回: リスク管理と危機管理、梅田 幸治 (大阪大学)			
本e-Learningコンテンツは、大学生のための『安全・安心』の基礎講座 (一般社団法人 国立大学協会 http://www.janu.jp/) の資料を用いて制作しています。			
【授業時間外学習について】			
授業内容と併せて自分の生活について確認し、危険やリスク等がないかを考え、大きなトラブルに巻き込まれないような危機管理について考えるようにしてください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】			
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。			
URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			

特になし

オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

教員の実務経験との関連

本授業は「実務経験のある教員による授業科目」である。

現在愛媛労働局粉塵対策指導員として県内企業の塵肺防止指導を行っている。この経験をもとに，安全教育を行う。

ナンバリングコード B2LAC-ebcG-10-Le1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050205)	広範教養教育科目	前期集中	
広範教養主題科目	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 徳島で暮らす・徳島で働くを考える	分野 広範教養教育科目	DPコード: ebc	特定プログラムとの対応 対応なし
徳島で暮らす・徳島で働くを考える／ Challenge of "life in Tokushima, work in Tokushima"	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
金西 計英	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 徳島県 将来ビジョン やりがい 暮らし			
徳島県内の第一線で活躍するリーダーや県内高等教育機関のOB・OGを講師に迎えて、経験の中から生まれた確信や考え方を語ってもらい、みなさんに自らのキャリア形成や地域社会との共生について、これからの持続可能世界を生きる意味について主体的に考えてもらう。			
授業の目的			
徳島県の産業面から見た将来ビジョンと地元で働くやりがいや暮らしの楽しさ、メリットなどについて、地域の識者から学び、考えることで、将来の就職先としての徳島県の魅力について理解を深める。			
到達目標			
①徳島の地域文化を理解し、徳島における暮らしの魅力を説明することができる ②徳島の成長力がある産業を理解し、大学での自分の学びとつなげて考えることができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
各回講義の終わりに作成する小レポート (10点×7回) と最終レポート (30点)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回: 徳島県の将来ビジョン (徳島県知事) 第2回: 徳島の地域づくりと観光産業 第3回: 徳島の地域医療と福祉の仕事 第4回: 徳島の次世代技術関連産業の展望 第5回: 徳島の6次産業化の取り組みと農林水産業の展望 第6回: 徳島のICTと地域産業 第7回: 徳島県の山海エリアで働く (パネルディスカッション) 第8回: 徳島県の強みと成長産業+総括			
【授業時間外学習について】			
参考図書として「徳島を好きになる本-文化と経済でみる「徳島」」(徳島経済研究所)を推薦します。市販品ではありませんが、大学図書館などで参照できます。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】			
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
特になし			
オフィスアワー e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
各ビデオ講義を視聴し徳島県の魅力について理解を深めた上で、徳島県の魅力について友達や知人等と話し合ってみて下さい。			

ナンバリングコード B2LAC-bcxG-10-Le2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050206)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 数理科学の世界	分野 広範教養教育科目	DPコード: bcx	特定プログラムとの対応 対応なし
数理科学の世界／Invitation to Mathematics	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
大淵 朗	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】正多面体, 対称性, 小説, 美術, 歴史, パズル, 初等数学			
講義は一回ごとにテーマを決めて、原則一回完結になります。内容としては、数学の歴史、古代から近代文明に見ることの出来る数学の様相（西洋だけでなく江戸時代や中国の数学を含む）、美術で使われる数学理論、数学を取り扱った文学、音楽理論に現れる数学の理論、数学者の人間像（古代から現代まで）、占星術で使われる数学などで、レベル的には高校数学の内容で充分理解できるものです。			
授業の目的			
高校までの数学では、「与えられた問題に公式を当てはめて答えを出す」ことの繰り返しだったかも知れませんが、「数学する」ことの本質は、そんな限定的な物ではなくて、世の中の色々な場所に見ることができます。この講義では、様々な場面に於いて数学が現れてくる瞬間を観察する事で、受講者の数学に対するイメージをもっと広い物にしてもらうことを目的とします。こう言った広い意味での「数学する」ことの本質を知ことは人間社会の文化、科学、技術を支える人間の知的活動を体感することにもつながるものと考えます。			
到達目標			
・ 数学的概念や「数学する」ことを実感する。 ・ 数学が嫌いでなくなる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
本科目に關しまして以下の基準で評価をさせていただきます。 1: 毎回の資料及び動画は必ずMoodleにアクセスの上ご確認ください。全資料を確認して、「感想」を記入頂きますと一回の出席になります。一回の出席は1点に評価します。なお、「感想」の提出回数が10回未満の場合は、著しい減点を加えることがあります。 2: 毎回30問の○×で答える小問が用意されています。15回の講義でするので合計で450題になります。期末試験にて各受講者へ、その450題の中から各回の問題よりランダムに6題選択され合計90題をweb上で出題しますのでweb上で解答してもらいます。 3: 講義16回目が期末試験になります。通常の講義の時間に解答してもらいますので解答時間は90分になります。尚ランダムに問題を選択しますので、期末試験で選択される問題は受講者ごとに異なります。正解の場合は1問1.5点で評価させていただきます(不正解は0点) 4: 上記1:と3:の合計点を100点換算した得点(但し小数点以下は四捨五入) が最終得点になります。つまり((出席の点数+期末試験の点数)/150)×100の小数点以下四捨五入が最終得点です。この得点で評価します。 5: 毎回用意される30題は自主学習として講義終了後に何回も解答が可能です。ただし、この自主学習の解答結果は評価には加えません。授業計画は修正になることがあります。詳細は授業支援システム (Moodle) にあげます。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1. 古代バビロニアの数学と古代エジプトの数学 2. 最初の女性数学者とアラビアの数学 3. 音楽と数学 4. 絵画の中の数学 5. ケプラーの宇宙観 6. ルイス・キャロル 7. ピュタゴラス 8. 悪魔とサイモン・フラッグ 9. 中国の数学と日本の塵劫記 10. 和算と算額 11. 数学史のなかの女性 12. 対数の発見と計算の道具 13. ゲームの数学			

- 14. スナーク狩り
- 15. イミテーションゲーム
- 16. 期末試験

教科書は使いません。毎回資料を提示します。講義は原則一回完結を目指しています。
毎回の授業では、ビデオや資料の視聴と小テスト（30問程度の問題群から10問程度をランダムに出題）があります。

【授業時間外学習について】
適宜、参考資料を提示します。

【e-Learning科目の履修登録に際して】
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。
URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 電子メール（ohbuchi@tokushima-u.ac.jp）を利用してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第15回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS（Learning Management System）にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となります。受講方法の詳細については、LMS内のガイダンスを参照してください。

ナンバリングコード B2LAC-edxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 050207) 広範教養主題科目 知プラe科目 子どもと学校 Children and School 子どもと学校/Children and School	科目区分 広範教養教育科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 広範教養教育科目	提供部局 : 大教センター DPコード : edx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
	担当教員名 竹口 幸志	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 (1)学び, (2)教育, (3)子ども, (4)学校, (5)地域 時代とともに子どもを取り巻く社会環境は変化してきました。本講義では、子どもの遊び、子ども同士のかかわり、子どもと親のかかわり、子どもと教師のかかわり、子どもと学校のかかわり、地域のかかわりなどを取り上げ、これからの教育と教育へのかかわり方について考えます。			
授業の目的 子どもの発達、子どもの社会化、学制と学校設置の歴史的変遷、社会における学校機能、地域と学校のかかわりを理解することにより、親として、教員として、地域の参加者として、今後の教育を考える主体的な態度を身につけます。			
到達目標			
1. 子どもの発達、子どもの社会化、学制と学校設置の歴史的変遷、学校機能、地域と学校のかかわりについて理解している。 2. 教育にかかわるうえで、主体的な態度が身についている。 (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準 成績評価の方法: レポート, 討論, 試験 等 成績評価の時期: 受講期間終了後, 成績処理を行う 成績評価の観点: レポート (客観性, 批判的思考, 新規性, 妥当性, 論理的思考, 文章表現力), 討論 (学びあい, 助け合い), 試験 (学習到達度, 主体的問題解決力等) 成績評価の基準: レポート (40%), 討論 (30%), 試験 (30%) 注1: 各授業回に設置された動画はすべて視聴してください。動画を視聴せず、課題 (レポート, 討論, 試験を含む) のみを提出した場合は授業を視聴していないものと判断し、提出された課題 (レポート, 討論, 試験を含む) は採点の対象外 (加点しない) となります。 注2: 指定された期日を過ぎて課題 (レポート, 討論, 試験を含む) を提出した場合、提出された課題は採点の対象外 (加点しない) となります。必ず期日内に提出してください。 注3: レポート, 討論, 試験等の課題にはすべて解答してください。解答されていない箇所がある場合、当該箇所は採点の対象外 (加点しない) となります。 注4: 質疑や学習のフィードバック: 適宜行いますが、内容に応じて回答に時間を要する場合があります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション 第2回 学校の歴史 -西洋の学校- 第3回 学校の歴史 -日本の学校- 第4回 学校の機能と特性 第5回 徳島の教育史 1 第6回 徳島の教育史 2 第7回 子どもの発達について 第8回 子どもという存在について 第9回 家族の中の子ども 第10回 子どもの集団 第11回 子どもと学校の出会い 第12回 学校臨床 第13回 社会の中の学校 第14回 問題の再定義と対応策の検討 第15回 まとめ 【授業時間外学習について】 学習習慣の定着と学習理解の促進のため、予習と復習を勧めます。			

【受講の条件】

e-Learning形式による授業のため基礎的なコンピュータの操作や文章処理ソフトウェア等の使用は必須です。インターネットブラウザの操作や文章作成ソフトの操作等ができることを前提に講義を行いますので、操作に不安がある場合は、所属大学の情報センターヘルプデスクまたは教務にご相談ください。

なお、本講義は大学に設置される学生用のコンピュータールームでの受講を担保しています。家庭用パソコン、スマートフォン、タブレット等の情報機器による講義の視聴は担保されておりませんので注意してください。これらの機器で見た場合、不具合が生じる場合があります。

【受講期間】

受講期間を設けます。受講期間は、受講生が所属する大学の成績判定へ切に応じて設定します。開講時に教務または学習管理システム（Moodle）を通して通達します。受講期間を充分に確認して受講してください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。必要に応じて講義中に資料を配布する。

オフィスアワー ・特に設けない。電子メール（ktakeguchi@naruto-u.ac.jp）で問い合わせること。

- ・教務に関する質問事項は、所属大学の教務に問い合わせてください。
- ・技術的トラブルは、所属大学の情報センターまたはヘルプデスクに問い合わせてください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ**【受講の辞退について】**

受講調整期間中または履修取消期間中に所属大学 教務で手続きしてください。手続きが行われない場合、受講者として捉え、受講督促を行う場合があります。

【禁止事項について】

なりすましによる受講と受験、レポート盗用、コンピュータ内への動画の保存・蓄積、インターネット上への無断配信・共有、掲示板における教職員、学生への誹謗中傷 等。これらの不正行為が発見された場合、大学の規定に基づき厳正に対処します。

ナンバリングコード B2LAC-bacG-10-Le2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050208)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 情報社会の暮らし	分野 広範教養教育科目	DPコード: bac	特定プログラムとの対応 対応なし
情報社会の暮らし/Living in Information Society	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
竹口 幸志	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】(1)情報政策, (2)情報経済, (3)情報と法, (4)情報教育, (5)情報と倫理			
本講義では, 情報政策, 情報経済, 情報と法, 情報教育, 情報と倫理の観点から情報社会の暮らしについて考察します。日々刻々と変化する社会において, 情報技術が及ぼす影響やこれからの情報との付き合い方について考えてみましょう。			
授業の目的			
情報技術発展の歴史的変遷等に触れながら, 情報化の概念を理解し, 情報社会において情報の取捨選択と主体的な活動ができる態度を養います。			
到達目標			
1. 情報化の概念を理解している。 2. 情報技術の発展の歴史を理解している。 3. 情報技術が及ぼす影響について考えることができる。 4. 情報社会を生きる上で規範意識をもち, 主体的に行動することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
成績評価の方法: レポート, 討論, 試験 等。 成績評価の時期: 受講期間終了後, 成績処理を行う。 成績評価の観点: レポート (客観性, 批判的思考, 新規性, 妥当性, 論理的思考, 文章表現力), 討論 (学びあい, 助け合い), 試験 (学習到達度, 主体的問題解決力等)。 成績評価の基準: レポート (40%), 討論 (30%), 試験 (30%)			
注1: 各授業回に設置された動画はすべて視聴してください。動画を視聴せず, 課題 (レポート, 討論, 試験を含む) のみを提出した場合は授業を視聴していないものと判断し, 提出された課題 (レポート, 討論, 試験を含む) は採点の対象外 (加点しない) となります。 注2: 指定された期日を過ぎて課題 (レポート, 討論, 試験を含む) を提出した場合, 提出された課題は採点の対象外 (加点しない) となります。必ず期日内に提出してください。 注3: レポート, 討論, 試験等の課題にはすべて解答してください。解答されていない箇所がある場合, 当該箇所は採点の対象外 (加点しない) となります。 注4: 質疑や学習のフィードバック: 適宜行いますが, 内容に応じて回答に時間を要する場合があります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション 第2回 情報社会とは 第3回 情報技術の発達と動向 第4回 情報産業の発達と動向 第5回 情報社会における組織の変容 第6回 情報化による文化の変容 第7回 情報化が人間に及ぼす影響 第8回 情報と教育 第9回 知的財産権の保護と知的財産政策 第10回 著作権の保護制度 第11回 個人情報の保護とライフログビジネス 第12回 セキュリティとサイバー犯罪 第13回 法的責任, 信頼性と安全性の問題 第14回 情報と倫理 第15回 まとめ			
【授業時間外学習について】			

学習習慣の定着と学習理解の促進のため、予習と復習を勧めます。

【受講の条件】

e-Learning形式による授業のため基礎的なコンピュータの操作や文章処理ソフトウェア等の使用は必須です。インターネットブラウザの操作や文章作成ソフトの操作等ができることを前提に講義を行いますので、操作に不安がある場合は、所属大学の情報センターヘルプデスクまたは教務にご相談ください。

なお、本講義は大学に設置される学生用のコンピュータールームでの受講を担保しています。家庭用パソコン、スマートフォン、タブレット等の情報機器による講義の視聴は担保されておりませんので注意してください。これらの機器で見た場合、不具合が生じる場合があります。

【受講期間】

受講期間を設けます。受講期間は、受講生が所属する大学の成績判定へ切に応じて設定します。開講時に教務または学習管理システム（Moodle）を通して通達します。受講期間を充分に確認して受講してください。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。必要に応じて講義中に資料を配布する。

オフィスアワー ・特に設けない。電子メール（ktakeguchi@naruto-u.ac.jp）で問い合わせること。

- ・教務に関する質問事項は、所属大学の教務に問い合わせてください。
- ・技術的トラブルは、所属大学の情報センターまたはヘルプデスクに問い合わせてください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【受講の辞退について】

受講調整期間中または履修取消期間中に所属大学 教務で手続きしてください。手続きが行われない場合、受講者として捉え、受講督促を行う場合があります。

【禁止事項について】

なりすましによる受講と受験、レポート盗用、コンピュータ内への動画の保存・蓄積、インターネット上への無断配信・共有、掲示板における教職員、学生への誹謗中傷 等。これらの不正行為が発見された場合、大学の規定に基づき厳正に対処します。

ナンバリングコード B2LAC-bcxG-10-Le1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード：050209)	広範教養教育科目	前期集中	
広範教養主題科目	水準 学士：基礎科目	提供部局：大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 デジタルものづくり入門	分野 広範教養教育科目	DPコード：bcx	特定プログラムとの対応 対応なし
デジタルものづくり入門／Introduction to Digital Fabrication	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
宮下 晃一	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要			
【キーワード】(1)ものづくり， (2)デジタル， (3)3Dプリンタ， (4)3D-CAD， (5)設計			
3Dプリンタを使うと，誰でもが簡単にものづくりできる。3Dプリンタだけでなく，現在では様々な工作機械がコンピュータ制御されて自動加工を行っている。それらの機械に必要なものはデジタル化された設計図データ。設計データはインターネットを介して瞬時にどこにでも送信でき，ダウンロードでき，コピーでき，自分の必要な設計図に描きかえることが簡単にできる。つまり誰でもが自分の発想するものを3Dプリンタで作ることができ，必要があれば世界中の工作機械を使って本格的に生産することもできる。このようなデジタルものづくりの世界を紹介するとともに，3D-CADを使った簡単な設計の演習を行う。			
授業の目的			
3Dプリンタやレーザーカッターなど，デジタル技術を使ったものづくりの手法について概要を学び，3D-CADを用いた簡単な設計法を体験するとともに，情報化の進展に伴う今後のものづくりの可能性を展望する。			
到達目標			
3D プリンタやレーザーカッターを使ったものづくりの方法を理解する。 3D-CAD を使って，各自が製作したい物の設計データを制作する。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業毎に課される課題の提出状況と内容により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 授業の進め方。デジタルものづくりの概要。 第2回 3D-CAD演習・1 第3回 3D-CAD演習・2 第4回 3D-CAD演習・3 第5回 3D-CAD演習・4 第6回 3D-CAD演習・5 第7回 3D-CAD演習・6 第8回 課題製作			
【授業時間外学習について】 各自で3D-CADを使った演習を行って提出する課題がある。CADソフト(Fusion 360)を演習で使うので，各自のPCにインストールすること。			
【受講期間】 開講時に通知するため，留意されたい。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また，科目によって受講制限をかける場合がある。なお，教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので，大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで，期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chip-la-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
参考書1 書名 MAKERS 21世紀の産業革命が始まる I S B N 4140815760 著者名 クリス・アンダーソン 出版社 NHK出版 出版年 2012年 金額 2,090円			
参考書2 書名 基礎からのFreeCAD I S B N 4777519317 著者名 坪田 遼			

出版社 工学社 出版年 2016年
金額 2,640円

オフィスアワー オフィスアワー：特に設けない。電子メール（miyasita@naruto-u.ac.jp）で問い合わせること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業毎に課される課題は受講期間（開講時に通知する）内に提出すること。

【パソコン必要度】

必要。CADソフト(Fusion 360)を演習で使うので、各自のPCにインストールすること。

※Fusion360の動作環境について

＜Windowsの場合＞OS：windows 7 SP1 か windows 8、windows 8.1、windows10。CPU：64bitのプロセッサ（32bitはサポート外）。メモリー：3GB（4GB推奨）。ネット回線：ADSLかそれ以上。HDDの空き容量：2GB以上。グラフィック：512MB GDDR RAM（数年前のPCでも余裕でクリアできると思われる）。ポインティングデバイス：マウス。

＜Macの場合＞OS：AppleR macOS? Mojave v10.14;AppleR macOS? High Sierra v10.13; AppleR macOS? Sierra v10.12。その他の項目はWindowsと同じ

大学によっては学生用PCで使える場合がある。

ナンバリングコード B2LAC-axxG-10-Le1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050210)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 アカデミック・プレゼンテーション (PowerPoint編)	分野 広範教養教育科目	DPコード: axx	特定プログラムとの対応
アカデミック・プレゼンテーション (PowerPoint編) / Academic Presentation (Using PowerPoint)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	対応なし
担当教員名	関連授業科目 特になし		
仲道 雅輝	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】プレゼンテーション、研究成果報告、Microsoft Office PowerPoint 「伝わるプレゼンテーション」をすることで、分かりやすく効果的な研究発表を行うことができるようになることを目指します。本授業では、プレゼンテーションソフトMicrosoft Office PowerPointを用いて、「伝わるプレゼンテーション」を行うために、スライド修正の実践演習を交えながら必要な技術を修得します。			
授業の目的			
PowerPointを用いて効果的な研究発表を行うために、伝わりやすいプレゼンテーションの方法を身に付ける。			
到達目標			
(1) プレゼンテーションソフトMicrosoft Office PowerPointの基本操作ができる。 (2) スライドの構成やデザインの改善点を指摘し、修正できる。 (3) 研究発表用プレゼンテーションがPowerPointで作成できる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
① よいプレゼンテーションの効果 ② 伝わるプレゼンテーションとは ③ 3つの技術 (コントラスト・グルーピング・イラストレーション) ④ スライドデザインの基本 ⑤ 伝わるスライドデザイン7つのコツ ⑥ 実践演習「スライドデザインの修正」 ⑦ パワーポイントの便利技 ⑧ まとめ			
【授業時間外学習について】 「スライドの修正」実践演習では、実際に、スライドを修正する作業を行っていただきます。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
参考書1 書名 学生・研究者のための使える! PowerPointスライドデザイン 伝わるプレゼン1つの原理と3つの技術 I S B N 978-4759811759 著者名 宮野公樹 出版社 化学同人 出版年 2009 金額 ￥1,980 参考書2 書名 プレゼン力がみにつくPowerPoint講座 I S B N 978-4798122595 著者名 天野暢子 出版社 翔泳社 出版年 2010 金額 ￥1,870			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、課題提出) を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2LAC-bcxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 050211) 広範教養主題科目 知プラe科目 私たちの生活と材料 私たちの生活と材料/Materials in our daily life	科目区分 広範教養教育科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 広範教養教育科目	提供部局 : 大教センター DPコード : bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
	担当教員名 小林 千悟	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 材料、機能、資源、環境、循環型社会 私たちの生活の中で利用されている様々な機能を持った材料について紹介します。それら材料の開発の経緯や要求される特性をいかに引き出すかなどについて説明します。また、資源・環境・エネルギーの点で循環型社会を構築するために不可欠な機能材料についても解説します。何気なく使っている製品にも様々な機能を持った材料が活用されていることを知ってもらいたいと思います。			
授業の目的 材料は現代社会を支える大地のようなものであり、新材料の出現は新しい時代を常に切り拓いてきた。従って、工学の基礎として材料の基礎を理解することは非常に重要といえる。本講義から様々な特性を持つ材料がどのような所で使われおり、それがいかにして開発されてきたかを理解できる。			
到達目標			
材料の基本である物質の構造・性質および材料の機能を理解するとともに、材料のプロセッシング技術の基礎を理解する。そして、社会が必要としている材料の利用とその設計の基本が理解できるようになる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①様々な機能を持った材料をどのように作るか? (小林) ②無機機能材料の応用 (青野) ③半導体と有機材料 (井堀) ④磁石の世界 (山室) ⑤非晶質材料 (斎藤) ⑥身の回りの金属材料とその塑性変形挙動 (水口) ⑦鉱物資源の利用とエネルギー (佐々木) ⑧熱電変換材料 (松本) 【参照ホームページ】 愛媛大学工学部機能材料工学科ホームページ http://www.mat.ehime-u.ac.jp/index.html 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
特になし			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、課題提出) を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2LAC-bcxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 050212) 広範教養主題科目 知プラe科目 和算の世界 Introduction to Wasan 和算の世界／Introduction to Wasan	科目区分 広範教養教育科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士：基礎科目 分野 広範教養教育科目	提供部局 ：大教センター DPコード：bcx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
	担当教員名 河村 泰之	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要 【キーワード】 数学史、和算、算額 和算とは西洋の数学が入ってくるまでの日本の数学、特に江戸時代に普及・発展した日本の数学のことをいいます。当時は、和算を楽しむ人が数学の問題を算額とよばれる絵馬にして神社・仏閣に奉納する習慣がありました。愛媛県にも多数の算額が残されています。この授業では和算に関して、その歴史、計算の道具、図形公式、算額に記された図形問題などを学びます。			
授業の目的 学校教育では明治以後に西洋から導入された数学を学習しているため、江戸時代に発展した和算について知ることは少ない。和算に触れることで日本独自の数学文化を理解する。			
到達目標			
日本の数学の歴史を理解する。江戸時代の計算の道具や算額について説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①和算とは (平田) ②和算の歴史 (平田) ③油わけ算／ひろいもの (平田) ④算木を使ってみよう1 (河村) ⑤算木を使ってみよう2 (河村) ⑥関孝和 (平田) ⑦和算の図形公式 (平田) ⑧算額の問題 (平田) 【授業時間外学習について】 授業時間外に取り組む課題を与える 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chip-la-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 教科書1 書名 円周率の謎を追う 江戸の天才数学者・関孝和の挑戦 I S B N 978-4774325521 著者名 鳴海 風 出版社 くもん出版 出版年 2016 金額 1,650円			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、課題提出) を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2LAC-dbxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 050213) 広範教養主題科目 知プラe科目 研究倫理 研究倫理／Introduction to Research Ethics for Young Students	科目区分 広範教養教育科目	時間割 2020年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士：基礎科目 分野 広範教養教育科目	提供部局 ：大教センター DPコード：dbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
	担当教員名 田中 寿郎	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし	
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回＋自学自習			
授業の概要 【キーワード】 科学研究、倫理、研究上の不正行為、科学の社会的信頼性 卒業論文作成や将来研究者・科学者になる人だけでなく、科学技術を利用して生活する私たちが持っていなければならない倫理観とは何かについて考え学ぶ。我々の生活は、科学技術の成果の上に成り立っており、科学技術が社会に及ぼす影響は計り知れないほど大きい。科学技術の健全な発展のために必要な心得についても触れる。			
授業の目的 研究に関わる倫理的諸問題の全体像を把握し、具体的なトピック に即して、研究に従事する者として踏まえておくべき倫理原則と規範を習得する。			
到達目標			
自由かつ独創的で、質の高い科学研究は、人間生活や社会との関係を視野に収めた研究倫理に裏づけられたものでなければなりません。研究者あるいは高等教育を受けた教養人が身に着けていなければならない基本的倫理観を整理して確認する講義です。科学研究における責任ある行動がとれるようになり、誠実さ、正確さ、効率性、客観性といった基本的な価値を尊重することができるようになることが本講義の目的です（共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）。			
成績評価の方法と基準 すべての課題の提出がない場合には評価しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①責任ある研究活動とは ②研究計画を立てる ③研究を進める ④研究成果を発表する ⑤共同研究をどう進めるか ⑥研究費を適切に使用する ⑦科学研究の質の向上に寄与するために ⑧社会の発展のために 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chip-la-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等 【参照ホームページ】 （教科書のダウンロード）科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－ https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf 日本学術振興会（研究倫理教育）ホームページ https://www.jsps.go.jp/j-kousei/rinri.html			
オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。			

ナンバリングコード B2LAC-bacG-10-Le1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050214)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 インタフェースデザイン概論	分野 広範教養教育科目	DPコード: bac	特定プログラムとの対応 対応なし
インタフェースデザイン概論/ Introduction to Interface Design	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
三好 康夫	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 ヒューマンインタフェース, 入力デバイス, インタラクションデザイン, 情報デザイン			
本授業では, ヒューマンインタフェースの概念や人間の特性, 情報システムの使いやすさ等について概説し, 主にソフトウェアのユーザインタフェース設計手法について言及する。情報システム等の使いやすさの論理的な評価方法や, 使いやすさを意識したGUI設計の考え方を学ぶ。			
授業の目的			
・ヒューマンインタフェースの概念を学び, 情報システムの使いやすさについて考える。 ・Webデザインやスマートフォン・タブレットアプリ開発の手法や, 情報デザインとインタラクションデザインの考え方を学ぶ。			
到達目標			
(1) 情報システム等の使いやすさを論理的に評価することができる (2) 使いやすさを意識した GUI 設計の考え方を説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
各回の小テストを計35点満点, 各回のレポートを計35点満点, 期末レポートを30点満点で評価し, 合計60点以上を合格とする。ただし, 各回 (1?7回) の小テストとレポートを全て提出しなければ, 期末レポートは提出できないので注意すること。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
※ 授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス, ヒューマンインタフェースとは 2. Webやモバイル端末におけるヒューマンインタフェース 3. コミュニケーション支援, インタラクションのデザイン 4. 情報のデザイン, サイト設計, ユーザビリティ評価 5. 人間の情報処理モデル, ヒューマンエラー, 人間サイドからの設計 6. 情報入力系, 情報出力系, インタラクションの拡張 7. ユーザのアシスト, ユニバーサルデザイン, 今後のヒューマンインタフェース 8. ペーパープロトタイピング, 期末レポート			
【授業時間外学習について】			
e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて, 各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】			
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また, 科目によって受講制限をかける場合がある。なお, 教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので, 大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで, 期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
教科書1 書名 イラストで学ぶヒューマンインタフェース 改訂第2版 IS B N 978-4-06-516143-2 著者名 北原義典 出版社 講談社 出版年 2019 金額 2,600円+税			
オフィスアワー 電子メール (miyoshi+el@is.kochi-u.ac.jp) を利用してください			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
第1回目から第8回目までの受講はすべて, インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS			

(Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。

ナンバリングコード B2LAC-daxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード: 050215) 広範教養主題科目 知プラe科目 大学生活入門 大学生活入門 (大学期間中にこれならできそうだと思う目標・計画を立てよう!) ／Guide for New face in University (Let's start planning your university life!)	科目区分 広範教養教育科目	時間割 2020年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士: 基礎科目 分野 広範教養教育科目	提供部局: 大教センター DPコード: dax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 高畑 貴志	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×16回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】目的・目標・計画、大学生活、キャリア、eラーニング、ストーリー中心型カリキュラム (SCC) 大学生活を有意義に過ごすための手助けをする科目です。大学卒業後にどうなっていたいのか、それに向けて何をすればよいのかを具体的に考えていくための活動をいくつも用意しています。 この科目はeラーニングですが、ビデオなどの視聴はほとんどありません。実際に行うことは次の通りです。 ・指示に従って実際にどこかへ出向き、その証拠としてスマホ等を使い現地で撮影した自撮り写真などを提出 ・出向いた先で知ったこと、学んだことについてのレポート (感想や意見など) を提出 ・LMS上でディスカッション など またこの授業の特徴は、提示されるストーリーの軸に沿って、各回で示されるさまざまな出来事に取り組むという方法をとっていることです。このような学習方法をストーリー中心型カリキュラム (SCC) と呼んでいます。 教材、課題の一部を下記URLで公開しています。(担当教員の高知大Office365のOneDrive上のファイルです) 受講を検討する際に参考にしてください。(2行になっていますが改行せず入力すること) https://kochiuacjpmi.sharepoint.com/:b:/g/personal/k78145558_kochiu_ac_jp/EVh0wpJVrs1JkMJ1vsatDwCB0tjth0etbrV_nmSsSC8Gww?e=EYjxxg			
授業の目的 1) 大学卒業後の自分の姿を思い描き、その実現に向けて、大学期間中にこれならできそうだと思う行動目標を1つ以上立て、それらを含む学期単位・年単位での計画を作成することができる。 2) 自らが立てた行動目標・計画を実行するために必要となる (かもしれない) 大学内外のリソース (授業そのものや図書館等の設備、学外の施設など) に親しむことができる。			
到達目標 1?1) 大学卒業後の自分の姿を思い描き、その実現に向けて、大学期間中にこれならできそうだと思う行動目標を1つ以上立てることができる。 1?2) 自ら立てた行動目標実現のために、学期単位・年単位での計画を作成することができる。 2) 自らが立てた行動目標・計画を実行するために必要な大学内外のリソースに触れ、それらの役割・自分にとっての意味について説明することができる。 (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)			
成績評価の方法と基準 【ブロック1 (第1回～第3回)】 課題1: 目標と計画 (最初) 10点 (各回に設けられたタスクは成績評価対象外ですが、必須の活動です。) 【ブロック2～ブロック4 (第4回～第15回)】 課題2: さまざまな活動 (タスク) への取り組み 50点 (各回に設けられた3つ程度のタスクは必須の活動であり、成績評価の対象です。) 【ブロック5 (まとめ回)】 課題3: 疑似体験を踏まえた目標と計画 (最後) 40点 (各回に設けられたタスクは成績評価対象外ですが、必須の活動です。) 合計 100点 単位の修得には60点以上の成績が必要です。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 【ブロック1: 大学生活の始まり】 入学おめでとう! (あなたは架空の大学 Unlearn University に入学しました!)			
第2回 【ブロック1: 大学生活の始まり】 新しい環境の探索			

(主に大学内の施設・設備を探索します。)

第3回 【ブロック1：大学生活の始まり】

先輩の話

(社会人となった先輩の話を聞く機会があります。)

第4回 【ブロック2：1年生のスタート】

正課外活動に取り組みたい

(授業以外の活動に取り組むことを勧められました。)

第5回 【ブロック2：1年生のスタート】

ディスカッションのできる場所はどこ？

(授業時間外にグループワークをする授業があり、ディスカッションをする場所を探さなければなりません。)

第6回 【ブロック2：1年生のスタート】

友人の訪問(1)

(長期休みになり、友人が訪ねてきました。県内を案内したいと思います。)

第7回 【ブロック2：1年生のスタート】

ノートをコピーさせて欲しいという依頼

(授業を休んだ友だちが、突然、ノートを見せてくれと言ってきました。)

第8回 【ブロック3：2年生から4年生まで】

インターン活動へのアクセス

(学生時代にインターンを行うことを強く勧められました。)

第9回 【ブロック3：2年生から4年生まで】

図書館からのメール

(図書館で本を借りました。)

第10回 【ブロック3：2年生から4年生まで】

友人の訪問(2)

(別の友人が訪ねてくることになりました。)

第11回 【ブロック3：2年生から4年生まで】

研究室を決めないで

(そろそろ研究室を決める必要がでてきました。)

第12回 【ブロック3：2年生から4年生まで】

就職支援室で情報収集

(就職支援室でどんな支援が受けられるのか、探してみようと思います。)

第13回 【ブロック4：大学生活の終わりに向けて】

卒論の準備(1)

(図書館やインターネットなどで情報検索・情報収集をします。)

第14回 【ブロック4：大学生活の終わりに向けて】

卒論の準備(2)

(図書館やインターネットなどで情報検索・情報収集をします。)

第15回 【ブロック4：大学生活の終わりに向けて】

後輩へのアドバイス

(卒業にあたり、後輩へのアドバイスをまとめます。)

第16回 【ブロック5：まとめ】

ストーリーから離れ、自分自身の目標・計画を立てる

【授業時間外学習について】

講義受講型ではないため、授業時間内・授業時間外という枠はありません。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

eラーニングです。パソコン(やスマホ)からインターネットを介して、学習コンテンツにアクセスする必要があります。そのため、パソコン操作は必須です。また、大学から割り当てられたメールアドレスでのメール送受信も必要となります。さらに、取り組みの中にはスマホ(デジカメ)等での”自撮り”写真の提出などがあります。

ナンバリングコード B2LAC-axxG-10-Le2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050216)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目 知プラe科目 学びの統合入門	水準 学士: 基礎科目 分野 広範教養教育科目	提供部局: 大教センター DPコード: axx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
学びの統合入門 (将来の活動につながる情報・知識の蓄え方を身につけよう!) / Learning in University (Let's develop your own learning style!)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名 杉田 郁代	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×16回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】情報の管理, 知識の管理, eラーニング			
大学での学びを意味のあるものにしていく手助けをする科目です。講義のノートの取り方、取り組み課題に関連する情報収集の仕方、集めた情報の管理の仕方、そして、収集・管理している情報からレポートへのアウトプットにつなげる具体的な方法を学びます。			
この科目はeラーニングですが、ビデオの視聴はほとんどありません。タスクの提出やLMS上のディスカッションなど、自律的に取り組む活動で構成されています。			
この授業では、提示されるストーリーの軸に沿って、各回で示されるさまざまな出来事に取り組むという方法をとっています。			
授業の目的			
1) 自分自身に適した情報インプット・管理の方法を身に付けることができる 2) 自分で管理している情報等をレポート作成などで実際に使うことができる			
到達目標			
1) 講義ノートの取り方をいくつか試し、自分自身に適した方法を見出すことができる。 2) 取り組んでいる課題 (レポートなど) に関連する情報収集の仕方・情報管理の仕方をいくつか試し、自分自身に適した方法を見出すことができる。 3) 自分で収集・管理している情報に基づいてレポートが作成できる。 4) 作成したレポートのどの部分にどのような情報を用いたのかを説明できる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)			
成績評価の方法と基準			
【ブロック1 (第1回)】 (設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)			
【ブロック2 (第2回～第5回)】 課題1: 自分なりのノートの取り方によって作成したノートの報告 (30点) (各回に設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)			
【ブロック3 (第6回～第11回)】 課題2: 自分なりの情報管理方法で集めた情報一覧の報告 (30点) (各回に設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)			
【ブロック4 (第12回～第15回)】 課題3: 作成したレポートのどこにどういう情報を使用したかの報告 (40点) (各回に設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)			
【ブロック5 (まとめ回)】 (設けられたタスクは成績評価の対象外ですが、必須の活動です。)			
合計 100点 単位の修得には60点以上の成績が必要です。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 【ブロック1: これまでの学びの方法の振り返り】 大学における学びとは? (これまでの学び方を振り返ります。)			
第2回 【ブロック2: 講義からのインプット】 自分に適したノートの取り方はどういうもの? (1) (コーネルメソッドによるノートの取り方)			
第3回 【ブロック2: 講義からのインプット】 自分に適したノートの取り方はどういうもの? (2)			

(見開き記入ノートによるノートの取り方)
第4回 【ブロック2：講義からのインプット】
自分に適したノートの取り方はどういうもの？(3)
(三本線ノートによるノートの取り方)
第5回 【ブロック2：講義からのインプット】
自分なりのノートの取り方を探る
第6回 【ブロック3：講義以外からのインプット】
一元管理？二元管理？ーデジタルツールの使い方
第7回 【ブロック3：講義以外からのインプット】
インターネットを通じて学術情報を得るためには
第8回 【ブロック3：講義以外からのインプット】
収集した学術情報を次に役立てるために
第9回 【ブロック3：講義以外からのインプット】
さまざまな情報をインターネットを通じて得るためには
第10回 【ブロック3：講義以外からのインプット】
収集したさまざまな情報を次に役立てるために
第11回 【ブロック3：講義以外からのインプット】
自分なりの収集情報管理方法を探る
第12回 【ブロック4：アウトプットの準備とアウトプット】
アイデアを広げるツール
第13回 【ブロック4：アウトプットの準備とアウトプット】
アイデアを絞り込むツール
第14回 【ブロック4：アウトプットの準備とアウトプット】
アウトライン作成ツール
第15回 【ブロック4：アウトプットの準備とアウトプット】
作成したレポートについてのレポート！
第16回 【ブロック5：まとめ】
ストーリーから離れ、自分自身の学びの行動について振り返る

【授業時間外学習について】
講義受講型ではないため、授業時間内・授業時間外という枠はありません。

【e-Learning科目の履修登録に際して】
本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。
URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー eラーニングシステム（LMS：Learning Management System）上の専用掲示板（フォーラム）でいつでも受け付けています。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・レポート課題を課す別の科目を1つ以上並行して履修している必要があります（この科目は、別の科目で課せられたレポートをよりよく書くためのスキルを学ぶ科目だからです）。
- ・eラーニングです。パソコン（やスマホ）からインターネットを介して、学習コンテンツにアクセスする必要がありますため、パソコン操作は必須です。また、大学から割り当てられたメールアドレスでのメール送受信も必要となります。

教員の実務経験との関連

学校現場の教員経験を持つ教員が、学生が大学における学びに向かう力を身に付けるための授業を行う。

ナンバリングコード B2LAC-axxG-10-Le1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050217)	広範教養教育科目	前期集中	
広範教養主題科目	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 アクティブラーニング入門	分野 広範教養教育科目	DPコード: axx	特定プログラムとの対応
アクティブラーニング入門 (体験する教室) / Learning Methods of Active Learners (Experience in Classroom)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	対応なし
担当教員名	関連授業科目 特になし		
高畑 貴志	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】参加型授業, アイスブレイキング, 反転授業,			
今, 小・中・高等学校では, アクティブラーニングの導入が進められています。都市部の有名進学校で先行して導入されているところは, 既に実績を上げています。この授業では, いくつかのパターンを教材化していますので, この教材を受講者がアクティブ(能動的)に学んでアクティブラーナーとなり, 将来教員になって, あるいは就職した後教育係となって, 子供の親となって, アクティブラーニングの実践ができるようになることを目指しています。			
授業の目的			
・学習者が主体的に学ぶとはどういうことかわかる。 ・学習者が主体的に学ぶためにどのようなサポートが必要かわかる。			
到達目標			
アクティブラーニングを実施する上で, どのような準備(環境整備)が必要か説明できる。 失敗しないグループワークのために, 必要なことが3つ以上言える。 学習者の参加を促すために, 注意を払わなければならないこと(教員の視点)が3つ言える。 試験紙法の手順が説明できる。 PBL が効果的な授業と, 試験紙法が効果的な授業のタイプ分けができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)			
成績評価の方法と基準			
・毎回のレポート 40% レポートは全て提出すること。未提出のレポートがある場合には, 成績評価を行いません。 ・毎回のレポート追加点 10% Goodの評価を受けている場合の加点 ・章末テスト 30% 十分な予習時間を取り, 間違えずに短時間で全問正解すること。誤答すると減点されます。2回受験が可能で, 2回受験した場合は平均点が成績として加算されます。 ・期末試験 20% ・単位修得のためには, 全ての課題を終えた上で合計60点以上の点数を取得する必要があります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
オリエンテーション 第1回 初回の授業ですべきこと 第2回 授業の最初にすべきこと 第3回 学生からのフィードバックを得る方法 第4回 失敗しないグループワークのために 第5回 勉強の仕方を教える 第6回 反転授業をやってみよう 第7回 プレゼンテーションのコツ 第8回 ICTを使う 期末試験 補助教材 Tips9 支援の必要な学生に対応した授業の工夫 【授業及び学習の方法】 全回オンデマンド型(非同期型遠隔講義)で行われます。Webテキストを使ってよく予習をし, 毎回のレポートを提出した後, 指定された期限までに章末テストに解答する順序で学習します。 詳細については, 初回のコンテンツに記載しているのでそちらを参照すること。 【授業時間外学習について】			

■レポートの書き方■

・準備として、PDFテキストを読み、パラグラフごとに説明文をノートに書いてみましょう。ノートに書いた中から、5つ以上を選んでレポートとして提出してもらいます。ただし、レポートには異なるパラグラフから1文ずつを選ぶこと。

・説明文は1文に1つの事柄を、具体的に書くこと。2つ以上の事柄を1文で書いてある場合や、2つ以上の文章で説明している場合、内容に間違いがある場合、文法的な間違いがある場合は再提出を求めます。また、主語と述語がそろっていない場合も再提出とします。

*章末テストの正解の選択肢を書くつもりで書いて下さい。

・提出されたレポートにはコメントを返すので、コメントを見て参考とすること。ただし問題ない場合には「OK」、よく書かれている場合には「Good」とだけ返します。再提出が必要な場合には「再提出」と返します。*提出後にコメント欄を確認すること。

・レポートの最初の行には、タイトルを付けること。表紙は不要、タイトルはレポートの中身を表すものを自分で考えて付けること。2行目には自分の氏名、所属、学年を書くこと。1行空け、4行目から説明文を5つ書くこと。

* Goodの評価を得た場合は加点とします。

・レポートのファイル名は、学籍番号v章番号とすること。(例:b143c021v4.docx)

・レポートはWordで作成し、圧縮せずに提出すること。

・レポートはすべて提出すること。未提出や再提出が必要なのにしていなかった場合は、成績評価を行わない場合があります。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー Moodle内のコミュニケーションツール（フォーラム）を利用すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各章の章末テストに、標準的なスケジュール（解答期限）を設定しています。テストを受ける前にレポートを提出するため、レポート締切も同時期と考えて下さい。毎回のレポートを全て提出し、章末テストや期末試験を受験すること。未提出のレポートや未解答のテストがある場合、0点と評価します。

*締切に遅れても、必ず毎回のレポートを提出し、章末テストを受験してください。ただし、期末試験受験期限以降の評価は行いません。

*章末テストは2回受験可能で、2回受験した場合は平均点を成績とします。1回で高得点を得た場合、2回目を受験する必要はありません。

*標準スケジュールで示した各回の締切後にレポートをチェックし、コメントを返します。コメントを確認してください。レポートは、サイエンスコミュニケーションの練習のために書くものです。そのための評価基準を設定していますので、「受講の仕方」をよく読んで下さい。長い長いレポートを出す人がいますが、その場合は再提出にします。

ナンバリングコード B2LAC-baxG-10-Le1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050218)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 キャリアで活かすITリテラシー	分野 広範教養教育科目	DPコード: bax	特定プログラムとの対応 対応なし
キャリアで活かすITリテラシー (ITパスポートを学ぶ) / IT literacy for your Career (Lets' Study IT Passport)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
高畑 貴志	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】 ITパスポート, ストラテジ, マネジメント, テクノロジ			
ITパスポートの教科書に沿って、ITパスポートで求められる知識を順に身に付けていきます。 まず教科書をよく読み、重要なポイントを説明文に起こしてみましょう。説明文のうち、具体的に重要な事柄を5～10個選んでレポートとして提出します。その上で、公開されている問題を解き、正解率6割以上を達成してください。テクノロジー系のまとめの中間テストと、マネジメント系・ストラテジ系のまとめの中間テスト、および、期末試験をコース上で実施します。			
授業の目的			
社会の活動を理解する。 社会でのITの活用を理解する。			
到達目標			
テクノロジー系の範囲から重要な事項を 15 個挙げ、簡単な説明が加えられる。 マネジメント系の範囲から重要な事項を 10 個挙げ、簡単な説明が加えられる。 ストラテジ系の範囲から重要な事項を 10 個挙げ、簡単な説明が加えられる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)			
成績評価の方法と基準			
・ 毎回のレポート 20% レポートは全て提出すること。未提出のレポートがある場合には、成績評価を行いません。 ・ 毎回のレポート追加点 10% レポートにGoodの評価を受けている場合の加点 ・ 確認問題 30% 公開されているCBT疑似体験ソフトウェアを使い、各回に対応する問題を解くこと。6割以上の正解を各回の合格条件とします。 ・ 中間テスト 20% 十分な予習時間を取り、間違えずに短時間で全問正解すること。誤答するたびに減点されます。2回受験が可能で、平均点が成績として加算されます。 ・ 期末試験 20% 中間テストと同様の問題で、1回のみ受験可能です。早く正確に解答すること。誤答するたびに減点されます。 ・ 単位修得のためには、すべての課題を終えた上、合計60点の点数を取得する必要があります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ※授業内容は変更になる可能性があります。 第1回 授業概要および準備学修 第2回 (テクノロジー系) コンピュータシステム 第3回 (テクノロジー系) 情報処理の基礎知識 第4回 (テクノロジー系) ITを支える各種の技術 第5回 (テクノロジー系) ネットワーク技術・セキュリティ技術 中間テスト: テクノロジー系のまとめ 第6回 (マネジメント系) システムの開発・システムの運用管理 第7回 (ストラテジ系) 企業の業務活動・企業の戦略 第8回 (ストラテジ系) 企業の業務活動・企業の戦略 中間テスト: マネジメント系・ストラテジ系のまとめ			

第9回 期末試験

【授業及び学習の方法】

全回オンデマンド型（非同期型遠隔講義）で行われます。教科書を使ってよく予習をし、毎回のレポートを提出した後、指定された期限までに確認テストに合格するという順序で学習すること。

詳細については、コースのトップに記載している「受講の仕方」を参照すること。

【授業時間外学習について】

■レポートの書き方■

・準備としてテキストを読み、項目ごとに説明文をノートに書いてみましょう。ノートに書いた中の指定した範囲から、5～10個を選んでレポートとして提出してもらいます。ただし、レポートには異なる項目から1文ずつを選ぶこと。

・提出されたレポートにはコメントを返すので、コメントを見て参考とすること。ただし問題ない場合には「OK」、よく書かれている場合には「Good」とだけ返します。再提出が必要な場合には「再提出」と返します。
・レポートの最初の行には、タイトルを付けること。表紙は不要、タイトルはレポートの中身を表すものを自分で考えて付けること。2行目には自分の氏名、所属、学年を書くこと。1行空け、4行目から説明文を5つ書くこと。

*指定された範囲の内容を的確にまとめてあるレポートには加点します。

・レポートのファイル名は、学籍番号v章番号とすること。（例:b143c021v4.docx）
・レポートはWordで作成し、圧縮せずに提出すること。
・レポートはすべて提出すること。未提出や再提出が必要なのにしていなかった場合は、成績評価を行わない場合があります。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

教科書1 書名 令和02年 ITパスポートの 新よくわかる教科書

I S B N 978-4-297-10926-4 著者名 原山 麻美子

出版社 技術評論社 出版年 2019

金額 1280円（税抜き）

オフィスアワー Moodle内のコミュニケーションツール（フォーラム）を利用すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各回に、締切期日を設定しています。レポートと確認問題を解いた結果は、締切期日までに提出してください。毎回のレポートを全て提出し、対応する確認問題を解き、中間テスト・期末試験を受験すること。未提出のレポートや未解答の問題・テスト・試験がある場合、0点と評価します。単位修得のためには、全ての課題を終えた上、合計60点以上の点数を取得する必要があります。

*締切に遅れても、必ず毎回のレポートを提出し、対応する確認問題を解いてください。各回の締切期日後は50%の評価とします。ただし、最終締切以降は受け付けません。

*中間テストは2回受験が可能で、2回受験した場合は平均点を成績とします。1回のみ受験も可能です。1回目で高得点をとった場合、2回目の受験をする必要はありません。期末試験は1回のみ受験可能です。

*各回の締切後にレポートをチェックし、コメントを返します。コメントを確認してください。再提出を指示された場合は、レポートを修正して再提出してください。

ナンバリングコード B2LAC-aexG-10-Le1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050219)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 業務効率化のためのIT活用入門	分野 広範教養教育科目	DPコード: aex	特定プログラムとの対応 対応なし
Practical Use of Excel and Scripts for Business efficiency			
業務効率化のためのIT活用入門(面倒なことはExcelとスクリプトで片付けよう) / Practical Use of Excel and Scripts for Business efficiency (Semi-automate the Boring Stuff with Excel and Scripts)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
高畑 貴志	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】業務効率化, Excel, スクリプト処理, バッチ処理			
日々の業務における「ひとつひとつであれば簡単に終わる単純な処理」が大量かつ頻繁に発生する状況を想定し、IT技術を用いた半自動化により業務を効率よく処理する技法を身に付けます。手軽に活用できるよう、Microsoft Excel を中心に「プログラミング」まで踏み込まない範囲の技法を扱います。また、各大学が所在する地域に関する統計データを扱うことで、地元地域に対する理解を深めます。			
【授業の進め方】			
1. moodle上の資料を読み知識を身に付ける。			
2. 身に付けた知識を確認するための問題が用意される。			
3. 学生は、ほぼ毎回、確認用の小テストを受ける。			
4. 身に付けた知識の最終確認のため、期末試験を受ける (2回まで受験可、平均点で評価)			
5. 知識の応用のための、最終課題を課す。			
LMSコース内には、参加者同士が情報交換できる掲示板を設ける。			
授業の目的			
生産的・創造的な仕事に集中できるよう、IT技術を用いた半自動化により業務を効率よく処理する技法を身に付けることが、本授業の最大の目的である。			
到達目標			
1. Excel が大量の業務を効率よく処理する原理を理解できる。			
2. Excel に用意された大規模データ集計に向くツールを5つ挙げ、その機能を説明できる。			
3. スクリプトによるバッチ処理を説明でき、自分のPCで実行できる。			
4. web上で公開されている統計データを探し、Excelに取り込める。			
5. 1～4を統合して、自分の目的に応用できる。			
(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
確認テスト30%			
期末試験40%			
総合演習で作成した課題20%			
総合演習で他の受講生が作成した課題にコメントすること 10%			
単位の修得には60点以上の成績が必要です。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
※授業内容は変更になる可能性があります。			
1. イントロダクション・Excelの基本1			
2. Excelの基本2			
3. 置換・並べ替え・条件判断の活用			
4. アンケートの集計			
5. 文字列の処理・スクリプト処理			
6. 統計データの利用・フィルタ機能の活用			
7. ピボットテーブルの利用			
8. 総合演習			

【授業時間外学習について】

講義受講型ではないため、授業時間内・授業時間外という枠はありません。

eラーニングシステム moodle上のコンテンツを確認した上で、提示された活動に取り組んでもらいます。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー eラーニングシステム(LMS: Learning Management System)上の専用掲示板(フォーラム)でいつでも受け付けています。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

Excelが使えるWindowsのPCを使用できる環境が必要となります。（PC実習室等でも可）

Windowsのバージョン：8.1, 10

Excelのバージョン：Excel 2013, 2016, Office365のExcel, Excel2019

授業時間という強制的な仕組みがないため、主体的に取り組む姿勢や、自分で計画を立てて持続できる自立力が重要になります。

ナンバリングコード B2LAC-ebxG-10-Le2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050220)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 NPOと大学の経営	分野 広範教養教育科目	DPコード: ebx	特定プログラムとの対応
Management of NPO(Non-Profit Organization) and the University			対応なし
NPOと大学の経営 (非営利法人の社会的役割) / Management of NPO(Non-Profit Organization) and the University (Social Role of the Non-profit Corporation)	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
岩崎 保道	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】NPO、大学、非営利法人、経営、社会的役割 NPOにおける各分野の社会的役割や経営環境について解説する。さらに、大学の機能や経営環境について解説する。これらを四国の状況や事例を踏まえて展開する。 授業方法は動画の視聴を基本として、教科書を使用しながら説明する。			
授業の目的			
NPO (医療法人、社会福祉法人、NPO法人など) の経営環境などについて学ぶ。また、NPOが設置する大学の機能や存在意義を理解する。特に、四国4県の状況に注目して解説する。			
到達目標			
(1) NPO 及び大学の経営環境が分かるようになる。 (2) NPO 及び大学の社会的役割が分かるようになる。 (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
評価基準: 下記の小レポート及びレポート試験が達成目標に達しているか総合的に判断する。 評価方法: 小レポート (20点)、中期レポート試験 (40点)、後期レポート試験 (40点) とする。詳細は別途、示す。単位取得条件として、合計60点以上を取得する必要がある。なお、モジュール内の学修が出席に相当する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 NPOの社会的役割 (Ⅰ－1) NPOの定義や社会的役割、分野や社会的ニーズの観点からみた存在意義について説明する。 2 医療法人の経営環境 (Ⅰ－2) 医療法人の経営環境や社会的役割などを説明したうえで、四国の状況についてデータ等を踏まえて解説する。 3 社会福祉法人の経営環境 (Ⅰ－3) 社会福祉法人の経営環境や社会的役割などを説明したうえで、四国の状況についてデータ等を踏まえて解説する。 4 NPO法人の経営環境 (Ⅰ－4) NPO法人の経営環境や社会的役割などを説明したうえで、四国の状況についてデータ等を踏まえて解説する。 5 宗教法人の経営環境 (Ⅰ－5) 宗教法人の経営環境などの概要を説明したうえで、データ等を踏まえて解説する。 6 社団法人及び財団法人の経営環境 (Ⅰ－6) 財団法人と社団法人の経営環境や社会的役割などを説明したうえで、四国についてデータ等を踏まえて解説する。 7 フィランソロピーとソーシャルアントレプレナー (Ⅰ－7) フィランソロピー及びソーシャルアントレプレナーの社会的役割と特徴について説明したうえで、事例を踏まえて解説する。 8 大学の基本的機能と経営 (Ⅱ－1) 大学の基本的機能 (教育・研究・社会貢献) や、それを果たすための経営組織について説明する。また、私立学校を設置する学校法人の経営環境について解説する。 9 大学におけるIR (Institutional Research) の活用 (Ⅱ－2) 大学におけるIRの定義や活用方法、期待される効果について説明したうえで取組事例を紹介する。 10 大学の広報戦略 (Ⅱ－3) 大学広報の目的や期待される効果について説明したうえで、具体例を紹介しながら広報戦略の在り方について解説する。 11 大学提携による機能強化 (Ⅱ－4) 組織提携の目的や効果を説明したうえで、大学提携による機能強化の事例 (大学コンソーシアムなど) を紹介する。 12 大学の地域連携による社会的役割 (Ⅱ－5)			

大学が地域連携を行う目的や社会的役割、期待される効果について説明したうえで具体例を紹介する。

13 大学発ベンチャーの展開（Ⅱ－６）

我が国における大学発ベンチャーの展開や社会的効果を説明したうえで、全国的な動向をデータにより解説する。そのうえで、四国の状況を紹介します。

14 大学教職員の人材育成（Ⅱ－７）

大学における教職員の人材育成の目的や能力開発（FD及びSD）の必要性を説明したうえで、具体的な人材育成方法や期待される効果について解説する。そのうえで、大学教職員の人材育成の取組を紹介する。

15 大学の財政（Ⅱ－８）

会計の基本的役割を説明したうえで、大学の財政の特徴や課題について解説する。

【授業時間外学習について】

各回の授業の動画を視聴して、「小レポート（または、理解できたこと）」を提出すること。授業に対する質問があれば受け付ける。

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

教科書・参考書等

【教科書1】

書名 『非営利法人経営論』 I S B N 978-4-86429-285-6

著者名 岩崎保道編 出版社 大学教育出版 出版年 2014年

金額 本体1,800円 + 税

備考 (株)大学教育出版または各種オンラインショップのサイトで購入可

【教科書2】

書名 『大学の戦略的経営手法』 I S B N 978-4-86429-358-7

著者名 岩崎保道編 出版社 大学教育出版 出版年 2016年

金額 本体1,800円 + 税

備考 (株)大学教育出版または各種オンラインショップのサイトで購入可

【参考書1】

書名 『大学政策論』 I S B N 978-4-86429-068-5

著者名 岩崎保道編 出版社 大学教育出版 出版年 2011年

金額 本体2,400円 + 税

備考 電子書籍版のみ購入可

オフィスアワー 電子メール (yiwasaki@kochi-u.ac.jp) にて連絡すること

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

(1) 担当教員からのメッセージ

NP0や大学は身近な機関です。NP0は今後、何らかの形で関わる機会もあるでしょう。学生の中にはNP0法人で活動されている方も多くおられます。また、学び舎である大学の機能や経営環境を知ることが大切なことです。

(2) 履修希望学生に求めるもの

NP0（大学を含む）に強い関心を持つ学生で、その社会的役割や経営環境などについて積極的に学びたい、何らかの形で今後役に立ちたい、という方の受講を望みます。また、NP0に関する課題解決や環境改善のためにどうすればよいか？という問題意識を持って取り組む姿勢を持つ方を期待します。

(3) その他

「10 大学の広報戦略（Ⅱ－３）」及び「14 大学職員の人材育成（Ⅱ－７）」についてはゲストスピーカーが担当します（「教員の実務経験との関連」を参照）。

教員の実務経験との関連

「実務経験のある教員による授業科目」

・実務家教員 岩崎保道 / 高知大学 I R・評価機構の教員として、I R (Institutional Research) 業務を担っている。この業務で得た知識や経験をもとに、I Rに関わる授業（9 大学における I R (Institutional Research) の活用（Ⅱ－２））を行う。また、以前に学校法人 大阪女子学園 法人事務局の経理課会計系の事務職員を務めていた。この業務で得た知識や経験をもとに、財務に関わる授業（15 大学の財政（Ⅱ－８））を行う。

・実務家教員 谷ノ内識 / 学校法人追手門学院の広報課長として幼稚園から大学・大学院までの広報業務の責任者を務めており、過去にはNHK記者として広報と関係する報道の経験もある。この業務で得た知識や実践経験をもとに、広報に関わる授業（10 大学の広報戦略（Ⅱ－３））を行う。

・実務家教員 中元崇 / 大学コンソーシアム京都の勤務経験として、FD/SDを担当する事業部に所属していた。この経験を踏まえてFD/SDに関する授業（14 大学職員の人材育成（Ⅱ－７））を行う。

ナンバリングコード B2LAC-axxG-10-Le2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050221)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 ピア・サポート理論と実践	分野 広範教養教育科目	DPコード: axx	特定プログラムとの対応
Peer support theory and practice			対応なし
ピア・サポート理論と実践/Peer support theory and practice	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 2	
担当教員名	関連授業科目 特になし		
杉田 郁代	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】ピア・サポート理論、人間関係トレーニング、ストレスに関わる基礎理論、アンガーマネジメント			
人を支えるピア・サポート理論とその活動を実際に行うためのプロジェクトマネジメントについて学びます。ピア・サポート理論は、教育心理学や臨床心理学、健康心理学等の知見を複合しています。その基礎知識を獲得するとともに、ピア・サポート活動に必要なコミュニケーショントレーニングについても授業の中の体験を通して学びを深めていきます。最終的には、プロジェクトの進め方等の基礎知識を身につけることで、すぐにピア・サポート活動を実践できるように進めていきます。			
授業の目的			
人を支える活動 (ピア・サポート) に関わる理論的な知識の獲得とそれらの知識を体験的に学び学習を深めていきます。			
到達目標			
■ 生活の中でできる他者に対するサポートについて考えることができる ■ 他者とのコミュニケーションに関わる基礎知識を身に付け、考えることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)			
成績評価の方法と基準			
リフレクションペーパー (学習課題の提出を含む) 50点、ミニレポート (2回) 20点、個人プレゼンテーション (2回) 30点で成績評価し、合計60点以上の点数を習得する必要がある。モジュール内の学修活動が出席に相当する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
*授業内容は、変更になる可能性があります。 1. ガイダンス (授業内容の概要説明を含む) 2. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得 3. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得と体験 (1) 「聞くことと聴くこと」 4. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得と体験 (2) 「自己理解と他者理解」 5. コミュニケーションから生じるストレス 6. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得と体験 (3) 「思い込みについて考える」 7. コミュニケーションに関わる基礎知識の獲得と体験 (4) 「怒りとストレスについて考える」 8. サポートに関わる基礎知識の獲得 (5) 「問題解決と合意形成、ピアメディエーション」 9. サポートに関わる基礎知識の獲得「サポートの限界について考える」 10. 自分ができそうなサポート体験について考える 11. 10. の意見共有から学ぶ 12. ティーチングに関わる基礎知識の獲得 13. 日常生活の中のサポートについて考える 14. 学びの実践から振り返る 15. 学んだことを日常生活に活用する			
【授業時間外学習について】 授業外学習については、基礎知識を獲得するためのキーワード調べを行う。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
特になし			

オフィスアワー 事前にメール（isugita@kochi-u.ac.jp）で連絡をお願いいたします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学内外で、子ども達や地域の人と関わる学生、教職や社会福祉関連の仕事を目指している学生に受講を勧めます。いま、小中高等学校の現場においては、児童生徒の間のピア・サポート活動も盛んに行われています。

人に関わるということは、コミュニケーションの基礎知識だけでなく、自分自身のことを理解しておくことと人をサポートするための知識が必要になります。誰かの役に立ちたい！何か新しいことを、人を巻き込んで始めたいという人は、ぜひ受講を勧めます。

教員の実務経験との関連

学校現場の実務経験を持つ教員が、組織開発等において求められる人を助ける力であるピア・サポートの力全般を身に付けるための授業を行う。

ナンバリングコード B2LAC-dxxG-10-Le1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050222)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目	水準 学士: 基礎科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
知プラe科目 キャリアプランニング	分野 広範教養教育科目	DPコード: dxx	特定プログラムとの対応
Career Planning	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	対応なし
キャリアプランニング／Career Planning			
担当教員名	関連授業科目 特になし		
森田 佐知子	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】キャリアプランニング, 自己分析, 就職活動			
本授業は、キャリアプランニングの基礎知識を集約的に学ぶものである。講義では、キャリアプランニングの基礎となる理論と合わせて、自己分析や、進路に関する選択肢の増やし方、職業研究の方法等を説明する。また、キャリア形成に関する自分の意見や自己分析・業界研究の結果、キャリアビジョンなどを受講生同士で共有し、フィードバックを得る機会を随時提供することで、多様な視点からキャリアプランを見直す力を醸成することを目指す。			
授業の目的			
キャリアプランニングを行う上で必要な基礎知識を身につけ、自らのキャリアについて省察し、将来の行動に繋げる契機とする。			
到達目標			
1. キャリアプランニングにおいて必要な基礎知識と自己分析の手法を理解し身につける。 2. 業界や企業、職業に関する知識の広げ方を理解する。 3. 多様な視点から自分のキャリアプランを見直す力を身につける。 (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
・ 予習課題と小レポートの合計が60%, 定期試験レポート40%の配点で評価する。 ・ 単位修得のためには、合計60点以上を取得する必要がある。 ・ モジュール内の学修が出席に相当する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1. オリエンテーション (授業の流れの説明, 授業における目標設定) 2. キャリアプランニングの基礎理論 3. 自分を知るⅠ (社会で求められる力と自分の強みを知る) 4. 自分を知るⅡ (適職診断と志望業界・志望職種の広げ方を知る) 5. 働き方を考える (ワークライフバランスの本質とブラック企業) 6. 自分を他者に伝えるトレーニング (エントリーシートを書いてみよう) 7. インターンシップと就職活動 8. 授業のまとめ (これからの時代のキャリアプランニング), アンケート, 定期試験 (レポート)			
主にスライドを用いて授業を進めます。 必要な書籍や参考図書がある場合は授業の中で説明します。			
【授業時間外学習について】 授業終了後、授業を受けての自分なりのまとめや考察を行うこと。また、毎回、予習課題や小レポート等が課されるので、それを提出すること。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (LMS) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
主にスライドを用いて授業を進めます。 必要な書籍や参考図書がある場合は授業の中で説明します。			

オフィスアワー 電子メール (s.morita@kochi-u.ac.jp) を活用ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業はキャリアプランニングの基礎を学ぶものです。自分の将来をどう設計したらよいか分からない人、自分を知りたい人、将来の選択肢の増やし方を知りたい人、キャリアや就職活動に興味がある人、就職に向けて早めに準備をしたい人はぜひ受講してください。

本科目はe-learningで行われますが、moodleのフォーラム機能などを活用し、受講生同士の交流を取り入れます。多様な受講生との交流を通じて多様なキャリアに対する考えを学んでください。

(授業の内容は、講師の都合や受講生の理解度などにより変更する可能性があります。)

教員の実務経験との関連

この授業は実務経験のある教員による授業科目である。民間企業の人事部門で採用戦略立案や面接官を担当していた教員が、その経験を活かして、社会人として求められる力や就職活動、キャリア形成のために必要な知識等について講義を行う。

ナンバリングコード B2LAC-ebxG-10-Le1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050223)	広範教養教育科目	後期集中	
広範教養主題科目 知プラe科目 徳島を考える Geography and Culture of Tokushima	水準 学士: 基礎科目 分野 広範教養教育科目	提供部局: 大教センター DPコード: ebx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
徳島を考える／Geography and Culture of Tokushima	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 豊田 哲也	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
【キーワード】徳島県、自然、歴史、伝統、産業			
徳島県の自然環境や歴史、文化、産業に関するテーマを様々な側面から取り上げて講義する。具体的には、吉野川の地形環境、藍産業の歴史、特産地の形成などの一端を紹介する。			
授業の目的			
わたしたちはグローバルな時代にありながらも同時にローカルな社会に生きている。インターネットがいかに発達したとしても、自宅を建てたり（居住），学校で学んだり（教育），職業に就いたり（労働），病院に行ったり（医療），わたしたちの生活の基盤が地域の社会や経済の上に成り立っていることは変わらない事実である。東日本大震災の経験は、わたしたち一人一人の運命もまた地域の環境や共同体と不可分であることを教えてくれた。わたしたちがよりよい未来を望むならば、身のまわりの地域がどのような特性を持っているのか、いかなる課題に直面しているのかを理解し、持続可能な地域づくりを進めていかなければならない。もちろん、一言で地域的課題と言ってもその内容はさまざまである。大都市地域では人口集中や産業空洞化が叫ばれる一方、「地方」では過疎や人口高齢化などが深刻化し、伝統文化も大きく変容してきている。こうした地域差には、それぞれの地域における地理的・歴史的・文化的な背景の違いが反映されている。この講義では身近な地元である徳島県を取り上げ、さまざまな視点から地域の特性を明らかにし、取り組むべき地域的課題について考察する。			
到達目標			
他県の人に対して、以下の項目を説明できる。 1. 徳島県の自然や歴史と伝統文化 2. 徳島県の産業や経済の特色 （共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応）			
成績評価の方法と基準			
7回の小テストを計50点満点、期末レポートを50点満点で評価し、合計60点以上を合格とする。なお、小テストの受験（提出）回数が5回未満の場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ※ 授業内容は変更になる可能性があります。 1. 吉野川の地形環境 2. 吉野川の治水と利水 3. 阿波藍の歴史と伝統 4. 徳島市の都市発展 5. モラエスがくらしした徳島 6. すだちの特産地形成 7. 明石海峡大橋の経済効果 8. 総括			
【授業時間外学習について】 e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（LMS）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html			
教科書・参考書等			
特になし			
オフィスアワー 電子メール (toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp) を利用してください。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を参照されたい。

ナンバリングコード B3LAA-acbG-10-Lx2	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050408)	高度教養教育科目	前期水5	
上級英語 Study Abroad	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局: 大教センター DPコード: acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
西オーストラリア大学 英語研修 / ブルネイ・ダルサラーム大学 Discover Brunei Course	授業形態 講義	単位数 2	
担当教員名 植村 友香子, 町原 友梨	関連授業科目		
	履修推奨科目	Communicative English I/II	
学習時間 事前研修 (学内講義90分×10回) + 海外の大学での研修 (4～5週間) + 自学自習			
授業の概要			
グローバルな視野から考えた上で目の前の課題に向き合って行動するために必要なコミュニケーション力と異文化を理解する力を養う。そのための研修プログラムを本学の学術協定校である西オーストラリア大学の英語教育センター、またはブルネイ・ダルサラーム大学において受講する。事前研修では必要な手続き等を指導するほか、インターナショナルオフィス教員の講義や英語によるプレゼン練習などを行う。			
授業の目的			
英語を使って学ぶ学習環境に身をおき、海外生活を経験することは、外国語能力を高め、視野を広げるだけでなく、社会人として必要とされる主体性、実行力、課題発見力、創造力などを養うことにもつながる。			
到達目標			
1) 留学するために必要な諸手続きを知り、必要書類を作成できる。 2) 英語を使って、自分の表現したいことを相手の反応や感情を意識しつつ自分のことばで伝える。 3) 発表やレポートにおいて、内容を整理し説得的に伝えることができる。 4) 現地の文化や社会に関する知識を深める。			
1～4は共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応。			
成績評価の方法と基準			
成績評価の割合は以下の通りであるが、全ての項目(1から3)は必須である。 1) 事前研修における取り組み……30% 2) 派遣先の大学で発行する修了証および派遣先の大学で発行する評価証(成績証) 西オーストラリア大60% ブルネイ・ダルサラーム大20% 3) 成果報告書……西オーストラリア大10% ブルネイ・ダルサラーム大50% なお、成績登録は10月下旬になります。注意してください。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
＜事前研修＞ 担当: 植村・町原			
【西オーストラリア大学】			
1. ガイダンス 2. 応募書類確認 申込手続き説明 3. 応募書類確認 申込手続き説明 4. オーストラリアについて 5. 英語コミュニケーションスキル① 自分について語る 6. 英語コミュニケーションスキル② 香川について語る 7. 英語コミュニケーションスキル③ 日本について語る 8. 講義「Japan-Australia/Brunei Relations」 担当: リム・ロン教授 9. 講義「香川大学の国際交流」 担当: 徳田雅明教授 10. 危機管理学習 このほかにオンラインでプレースメントテストを受験。			
【ブルネイ・ダルサラーム大学】			
1. ガイダンス 2. 応募書類確認 申込手続き説明 3. ブルネイ・ダルサラームについて 4. ハラルについて 5. 英語コミュニケーションスキル① 自分について語る 6. 英語コミュニケーションスキル② 香川について語る 7. 英語コミュニケーションスキル③ 日本について語る 8. 講義「Japan-Australia/Brunei Relations」 担当: リム・ロン教授 9. 講義「香川大学の国際交流」 担当: 徳田雅明教授 10. 危機管理学習			

＜現地研修＞

【西オーストラリア大学】

夏休み期間中の5週間（2020年8月17日～9月18日）、西オーストラリア大学英語教育センターにて研修を受ける。研修時間数は、各週に20時間ずつで、合計100時間程度である。

【ブルネイ・ダルサラーム大学】

夏休み期間中の4週間（2020年8月5日～8月31日）、ブルネイ・ダルサラーム大学にて開講されるDiscover Brunei Courseを受講する。研修時間数は、42時間のクラス授業と様々な学外見学・フィールドワークから成る。

【以下、西オーストラリア大学、ブルネイ・ダルサラーム大学に共通】

＜成果報告書＞

研修中は「Weekly report」を植村宛に提出する。そのレポートをもとに、研修終了後、1週間以内にA4サイズで6～7枚程度の報告書を提出する。

＜自学自習＞

事前指導期間においては、訪問する国や大学の情報収集をする。研修中は、研修の効果が十分に上がるよう、必要な予習、復習を行う。

＜その他＞

海外研修参加前と参加後にTOEIC-IPテストなどの英語能力試験の受験を奨める。

＜注意＞

現地での研修をより実りあるものとするために、事前研修中はGlobal Cafeのレッスンを積極的に活用して英語の基礎力を高めるようにしてください。

教科書・参考書等

特に使用しない。必要な資料は授業中に配布する。

オフィスアワー 火曜日 11時から12時（幸町・南3号館2階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第3学期または第4学期に実施する留学報告会で、留学成果について報告すること。
海外研修に参加する学生は必ず、大学主催の危機管理セミナーに出席すること。
海外研修にかかる費用は受講生負担となる。費用の詳細はガイダンスで連絡する。

ナンバリングコード B3LAA-baxG-1N-Lg1	科目区分	時間割 2020年度	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050501)	高度教養教育科目	前期金3	
西洋古典語	水準 学士: 応用科目	提供部局: 大教センター	対象学生 全学生
ギリシア語初歩Ⅰ	分野 高度教養教育科目	DPコード: bax	特定プログラムとの対応
Primary GreekⅠ	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	ネクスト・プログラム
担当教員名	関連授業科目	ギリシア語初歩Ⅱ	
佐藤 慶太	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(事前学習20時間相当+事後学習10時間相当)			
授業の概要			
この授業で取り扱うのは、現代ギリシア語ではなく、古典ギリシア語です。現代において、古典ギリシア語は「死語」とされていますが、古典ギリシア語を学べば、ヨーロッパを形作ってきた知的伝統にじかに触れることができます。また、英語、ドイツ語、フランス語などの文法構造や語源に目を向けることにもつながるので、現代の外国語を学ぶことにも役立ちます。この授業では、そんな古典ギリシア語を、初歩の初歩から、ゆっくり、じっくり学習していきます。			
授業の目的			
中世以来、ヨーロッパの知識人、芸術家は絶えず古代ギリシア・ローマの学問・文化をモデルとして知の営みを蓄積してきました。この授業では、古典ギリシア語を学ぶことを通じて、古代ギリシアの文化とヨーロッパ文化について理解を深めます。			
到達目標			
①ギリシア語を正しく発音できる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
②ギリシア語文法の基礎を身につけて、簡単なギリシア語文を訳すことができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
③ヨーロッパ文化における古代ギリシアの重要性について、説明できるようになる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準			
古典ギリシア語に関しては、毎回、宿題(教科書の練習問題)をこなすことを前提として、その達成状況によって評価します(到達目標①、②に対応)。 その他、古代ギリシア文化については、調べ学習をしてもらい、その成果を評価します(到達目標③に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
テキストの練習問題をつかって、ギリシア語を日本語に翻訳するという作業が中心になります。授業では、課題の確認(答え合わせ)を行いますので、予習が不可欠です。 また、練習問題を解く合間に、古代ギリシアの文化、関連するヨーロッパ文化について、いくつかのトピックを取り上げて紹介します。学生にも、簡単な報告をしてもらう予定です。			
(1) イントロダクション: 古典ギリシア語とはどんな言語か (2) 文字と発音 (3) 音節とアクセント (4) 動詞変化① 現在直説法能動相 (5) 名詞変化① 第一変化その1 (6) 動詞変化② 未来直説法能動相 (7) 名詞変化② 第一変化その2 (8) 名詞変化③ 第一変化その3 (9) 名詞変化④ 第二変化 (10) 動詞変化③ 未完了過去直説法能動相 (11) 形容詞変化① 母音幹形容詞 (12) 前置詞 (13) 動詞変化④ アオリスト直説法能動相 (14) 動詞変化⑤ 現在完了、過去完了直説法能動相 (15) まとめと復習			
【自学自習についてのアドバイス】 古典ギリシア語の学習については、教科書の練習問題を解いてくること(予習)、授業でやった内容を振り返ること(復習)、これにつきます。 古代ギリシアについての調べ学習については、授業中に指示を出しますので、それにしてください。			
教科書・参考書等			
教科書: 田中美知太郎・松原千秋著『ギリシア語入門 新装版』岩波書店、2530円(生協の書籍部にて購入) 辞書、参考書等は授業で紹介します。			
オフィスアワー 木曜日12:00～14:00 佐藤慶太研究室(幸町北キャンパス5号館4階)			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・ 事前に必要な知識はありません。一からやっていきます。すこしでも興味があればそれが受講資格です。
- ・ 後期開講「ギリシア語初歩Ⅱ」で続きの学習をします。
- ・ 欠席するとわからなくなるのでやむ得ない場合を除いて欠席しないようにしましょう。

ナンバリングコード B3LAA-baxG-1N-Lg1	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2020年度 後期金3	対象年次 1～
授業科目名 (時間割コード: 050502)	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局: 大教センター DPコード: bax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
西洋古典語 ギリシア語初歩Ⅱ	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
ギリシア語初歩Ⅱ Primary Greek Ⅱ	関連授業科目 ギリシア語初歩Ⅰ		
担当教員名 佐藤 慶太	履修推奨科目 ギリシア語初歩Ⅰ		
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (事前学習20時間相当＋事後学習10時間相当)			
授業の概要 前期開講の「ギリシア語初歩Ⅰ」で身につけた文法の基礎と、ギリシア語読解の技法を前提として、より複雑な文法事項を学習します。並行して、古代ギリシアの文化と関連するヨーロッパ文化についても学びます。			
授業の目的 中世以来、ヨーロッパの知識人、芸術家は絶えず古代ギリシア・ローマの学問・文化をモデルとして知の営みを蓄積してきました。この授業では、古典ギリシア語を学ぶことを通じて、古代ギリシアの文化とヨーロッパ文化について理解を深めます。			
到達目標			
①比較的複雑なギリシア語の文章を日本語に訳すことができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) ②ギリシア語の文を文法的に説明することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) ③ヨーロッパ文化における古代ギリシアの重要性について、説明できるようになる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準 古典ギリシア語に関しては、毎回、宿題(教科書の練習問題)をこなすことを前提として、その達成状況によって評価します(到達目標①、②に対応)。 その他、古代ギリシア文化については、調べ学習をしてもらい、その成果を評価します(到達目標③に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス テキストの練習問題をつかって、ギリシア語を日本語に翻訳するという作業が中心になります。授業では、課題の確認(答え合わせ)を行いますので、予習が不可欠です。 また、練習問題を解く合間に、古代ギリシアの文化、関連するヨーロッパ文化について、いくつかのトピックを取り上げて紹介します。受講生にも、簡単な報告をしてもらう予定です。 (1) イントロダクション: 「ギリシア語初歩Ⅰ」の振り返り (2) 指示代名詞・強意代名詞 (3) 直説法能動相、本時相と副時称 (4) 後倚辞 (5) 疑問代名詞、不定代名詞 (6) 動詞変化⑥ 現在、未完了過去、未来の直説法中動相 (7) 人称代名詞 (8) 動詞変化⑦ アオリスト、現在完了、過去完了、未来完了の直説法中動相 (9) 再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞 (10) 直説法受動相 (11) 名詞変化⑥ 第三変化その1 (12) 能動相欠如動詞 (13) 名詞変化⑦ 第三変化その2 (14) 約音動詞 (15) まとめと復習 【自学自習についてのアドバイス】 古典ギリシア語の学習については、教科書の練習問題を解いてくること(予習)、授業でやった内容を振り返ること(復習)、これにつきます。 古代ギリシアについての調べ学習については、授業中に指示を出しますので、それにしがってください。			
教科書・参考書等 教科書: 田中美知太郎・松原千秋著『ギリシア語入門 新装版』岩波書店、2530円(生協の書籍部にて購入) 辞書、参考書等は授業で紹介します。			
オフィスアワー 木曜日12:00～14:00 佐藤慶太研究室(幸町北キャンパス5号館4階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・前期開講「ギリシア語初歩Ⅰ」の受講をしている学生のみ、受講可能です。 ・欠席するとわからなくなるのでやむ得ない場合を除いて欠席しないようにしましょう。			

